

平成30年度
文化に関する意識調査

静岡県

目次

I 調査概要	3
1 調査目的	3
2 調査内容	3
3 調査方法	3
4 回収結果	3
5 報告書を読む際の留意点	3
6 年代別補正	4
7 回答者の属性	4
8 回答者の属性表	5
II 設問別の結果	6
1 文化・芸術の鑑賞について	6
1-1 文化・芸術のメディアによる鑑賞機会	6
1-2 文化・芸術のメディアによる鑑賞内容	9
1-3 メディアによる文化・芸術鑑賞への月間支出額	12
1-4 文化・芸術の直接鑑賞機会	14
1-5 直接鑑賞した文化・芸術の内容	16
1-6 直接鑑賞への1公演平均支出額	20
1-7 直接鑑賞しなかった理由	22
1-8 今後直接鑑賞したい内容	29
1-9 鑑賞情報の入手媒体	37
2 文化・芸術の活動について	42
2-1 文化・芸術の活動機会の有無	42
2-2 文化・芸術の活動内容	44
2-3 文化・芸術活動への月間支出額	48
2-4 文化・芸術活動をしない理由	51
2-5 文化・芸術活動の情報入手媒体	58
2-6 今後したい文化・芸術活動	63
2-7 文化・芸術活動による効果・影響	69
3 静岡県の文化施設等について	72
3-1 「静岡県立美術館」への期待	72
3-2 「グランシップ」の利用経験	76
3-3 「グランシップ」の利用目的	78
3-4 「グランシップ」への期待	81
3-5 「公益財団法人静岡県舞台芸術センター（以下、SPAC）」の認知度	85
3-6 「SPAC」の鑑賞経験	87
3-7 「SPAC」への期待	89
3-8 「SPAC」を鑑賞しない理由	92
3-9 「SPAC」への意見	94
3-10 「ふじのくに地球環境史ミュージアム」への期待	96
3-11 「静岡県富士山世界遺産センター」への期待	98

4	静岡県文化振興について.....	100
4-1	文化に期待するもの.....	100
4-2	地域の誇りだと感じられる文化資源の有無.....	103
4-3	地域の誇りだと感じられる文化資源.....	105
4-4	子どもへの文化・芸術の提供.....	106
4-5	災害発生後の文化の役割の有無.....	109
4-6	災害発生後の文化の役割.....	111
4-7	オリンピック・パラリンピック文化プログラムの認知度.....	114
4-8	オリンピック・パラリンピック文化プログラムへの期待.....	116
4-9	文化・芸術振興のために、県へ期待すること.....	119
4-10	文化・芸術に対する支援活動参加の有無.....	122
4-11	文化・芸術に対する支援活動の内容.....	124
4-12	文化・芸術に対する支援活動参加理由.....	127
4-13	文化・芸術に対する支援活動参加希望の有無.....	130
4-14	文化・芸術に対する支援活動参加希望の内容.....	132
5	意見・要望など.....	135
6	集計表.....	138
7	調査票.....	196

I 調査概要

1 調査目的

静岡県民が文化に関してどのように感じ、文化の振興にどのような意見を持っているのかを把握するとともに、過去の調査結果と今回（平成30年度実施）の調査結果とを比較することで、文化活動や意識についての経年的な変化を把握し、今後の文化振興を進めて行く上での参考資料とする。

2 調査内容

- ①最近1年間の文化に関する活動や参加状況について
- ②文化に関する意識、イメージについて
- ③静岡県の文化振興の現状と今後の方向性などについて

3 調査方法

- ①調査地区 県内35市町
- ②調査対象 静岡県内に居住する満18歳以上の男女
- ③対象者数 2,000人
- ④抽出方法 層化二段無作為抽出法
- ⑤調査方法 郵送調査法（郵送配布－郵送回収）
- ⑥調査時期 平成30年8月

4 回収結果

回収数 780件
回収率 39.0%

5 報告書を読む際の留意点

- ①比率はすべて百分率で表し、小数点第2位以下を四捨五入して算出した。そのために比率の合計が100%にならないことがある。
- ②複数回答が可能な設問については、比率の合計は100%を超えることがある。
- ③本文中の設問の選択肢については、長文項目は簡略化した箇所がある。
- ④集計表はすべて補正後の数値である。
- ⑤各設問内では選択肢を年代別に後述する補正係数で乗じているため、選択肢が多くなると誤差が大きくなる場合がある。
- ⑥調査対象者の属性に無回答があるため、各図表の内訳の合計が回答者数と異なる場合がある。また、無回答は全体の比率計算に含めている。

6 年代別補正

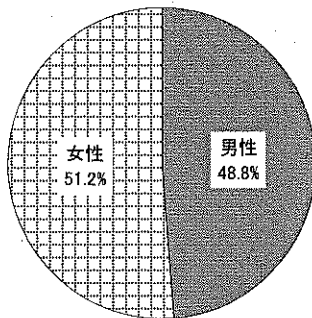
アンケート回収結果の件数及び比率については、静岡県全体の年代別人口（母集団）からの偏りを補正計算して調査結果としている。ただし、年代が無回答であった9件については補正係数を決めることができず、ウエイトバック集計が行なえないため集計から除外した。

年代	静岡県全体の人口(※1)		回収		補正係数
	数	割合(%)	数	割合(%)	
18～29歳	378,733	12.3	37	4.8	2.56
30～39歳	413,929	13.4	71	9.2	1.46
40～49歳	533,760	17.3	140	18.2	0.95
50～59歳	456,865	14.8	167	21.7	0.68
60～69歳	533,823	17.3	213	27.6	0.63
70歳以上	760,804	24.7	143	18.5	1.34
合計	3,077,914	100.0	771	100.0	

※1 平成29年静岡県年齢別人口集計（静岡県）

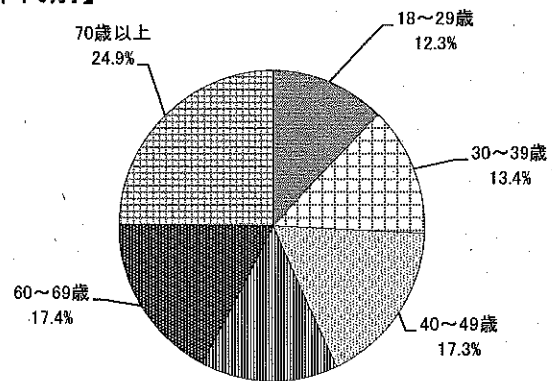
7 回答者の属性

【性別】



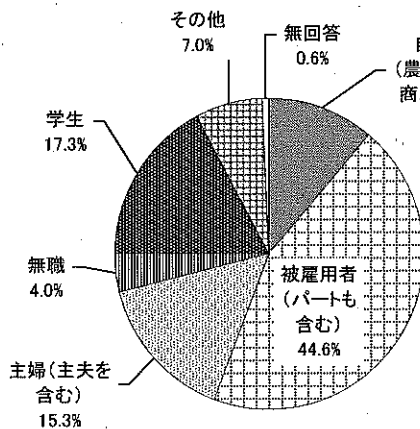
n=771

【年代別】



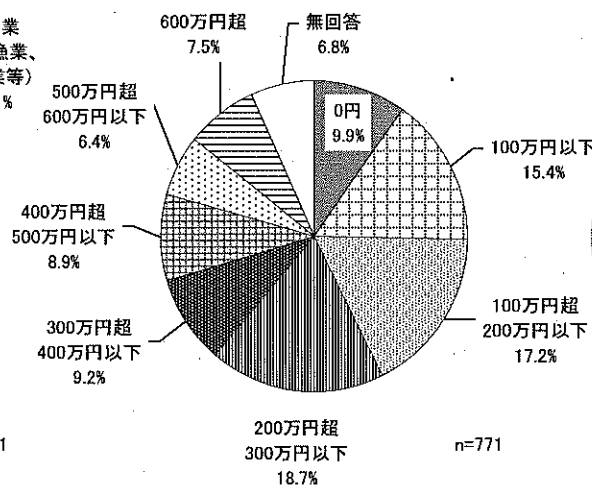
n=771

【職業別】



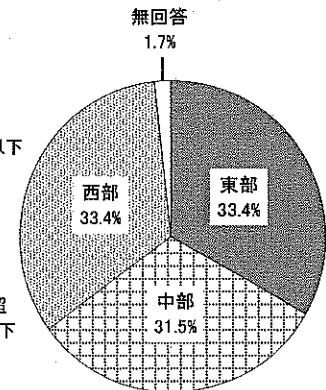
n=771

【収入別】



n=771

【地区別】



n=771

8 回答者の属性表

項目	特性	回答者 (人)	構成比 (%)	
性別	男性	376	48.8	
	女性	395	51.2	
	無回答	0	0	
年代別	18～29歳	95	12.3	
	30～39歳	104	13.4	
	40～49歳	133	17.3	
	50～59歳	114	14.7	
	60～69歳	134	17.4	
	70歳以上	192	24.9	
	無回答	0	0.0	
性・年代別	男性	18～29歳	41	5.3
		30～39歳	53	6.8
		40～49歳	56	7.3
		50～59歳	56	7.2
		60～69歳	66	8.6
		70歳以上	105	13.6
		無回答	0	0.0
	女性	18～29歳	54	7.0
		30～39歳	51	6.6
		40～49歳	77	10.0
		50～59歳	58	7.5
		60～69歳	68	8.8
		70歳以上	87	11.3
		無回答	0	0.0
職業別	自営業(農林漁業、商工業等)	86	11.1	
	被雇用者(パートも含む)	344	44.6	
	主婦(主夫も含む)	118	15.3	
	無職	31	4.0	
	学生	133	17.3	
	その他	54	7.0	
	無回答	5	0.6	
収入別	0円	76	9.9	
	1円～1,000,000円	119	15.4	
	1,000,001円～2,000,000円	133	17.2	
	2,000,001円～3,000,000円	144	18.7	
	3,000,001円～4,000,000円	71	9.2	
	4,000,001円～5,000,000円	69	8.9	
	5,000,001円～6,000,000円	49	6.4	
	6,000,001円～	58	7.5	
	無回答	52	6.8	
地区別	東部	257	33.4	
	中部	243	31.5	
	西部	258	33.4	
	無回答	13	1.7	

※静岡県の人口構成比に即した補正を実施しているため、集計表の属性別の件数・割合と異なる場合がある。

※補正時の誤差により、各属性の合計は一致しない場合がある。

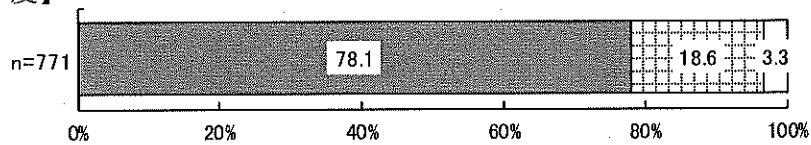
Ⅱ 設問別の結果

1 文化・芸術の鑑賞について

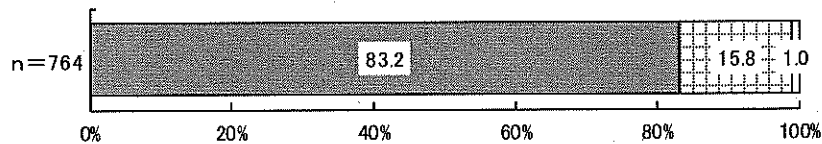
1-1 文化・芸術のメディアによる鑑賞機会

問1 あなたは、昨年1年間に、メディア(テレビ、インターネット、DVD、電子・紙媒体書籍等)を通して、文化・芸術を鑑賞する機会がありましたか。

【平成30年度】



【平成27年度】



ある ない 無回答

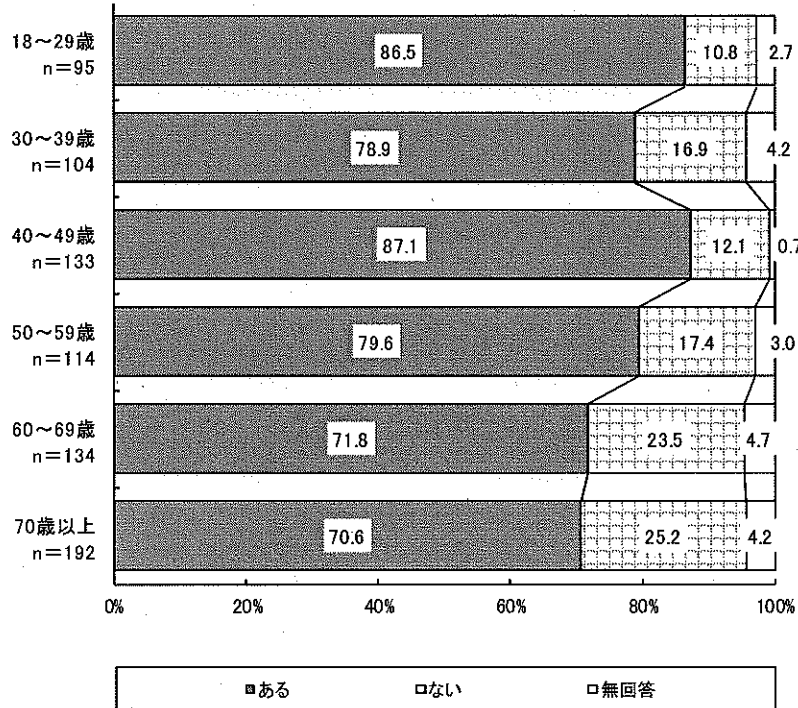
<全体>

昨年1年間に文化・芸術を鑑賞する機会が「ある」と回答した割合は78.1%で、「ない」と回答した割合は18.6%であった。

<年代別>

文化・芸術を鑑賞する機会が「ある」とした割合の第1位は40～49歳の87.1%で、続く18～29歳の86.5%までが8割台となっている。70歳以上は70.6%と、最も低い割合となっている。

【図1-1-i 年代別 文化・芸術のメディアによる鑑賞機会】

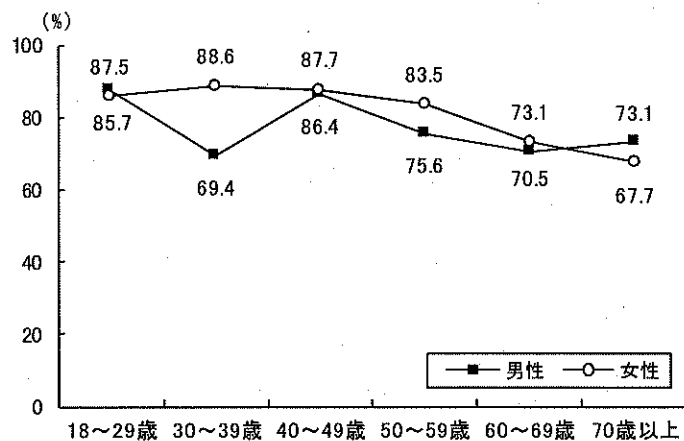


<性・年代別>

文化・芸術を鑑賞する機会が「ある」とした人を性・年代別で見ると、18～29歳、70歳以上を除く年代で女性の方が男性よりも鑑賞した割合が概ね1～17ポイント高い。18～29歳では1.8ポイント、70歳以上では5.4ポイント男性が女性を上回っている。

男性は18～29歳が文化・芸術を鑑賞する機会が「ある」とした人の割合が最も高く、女性は30～39歳が第1位となっている。また、男性は30～39歳、女性は70歳以上が最も低く、男女ともに7割を下回っている。

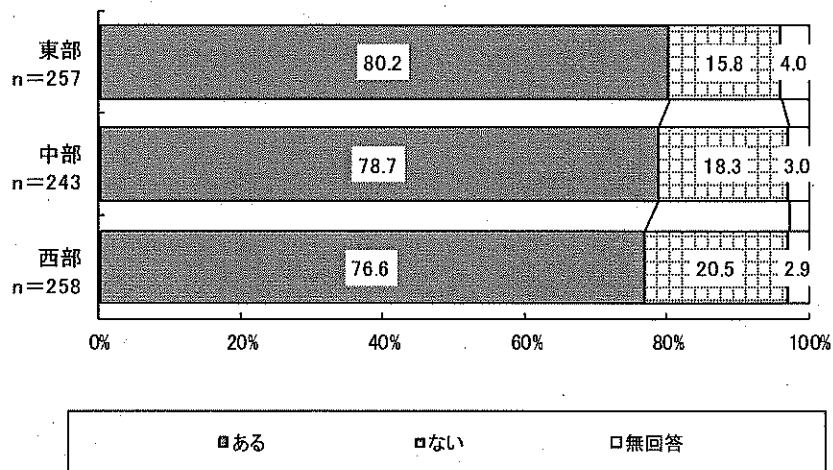
【図1-1-ii 性・年代別 文化・芸術のメディアによる鑑賞機会(「ある」と回答した割合)】



<地区別>

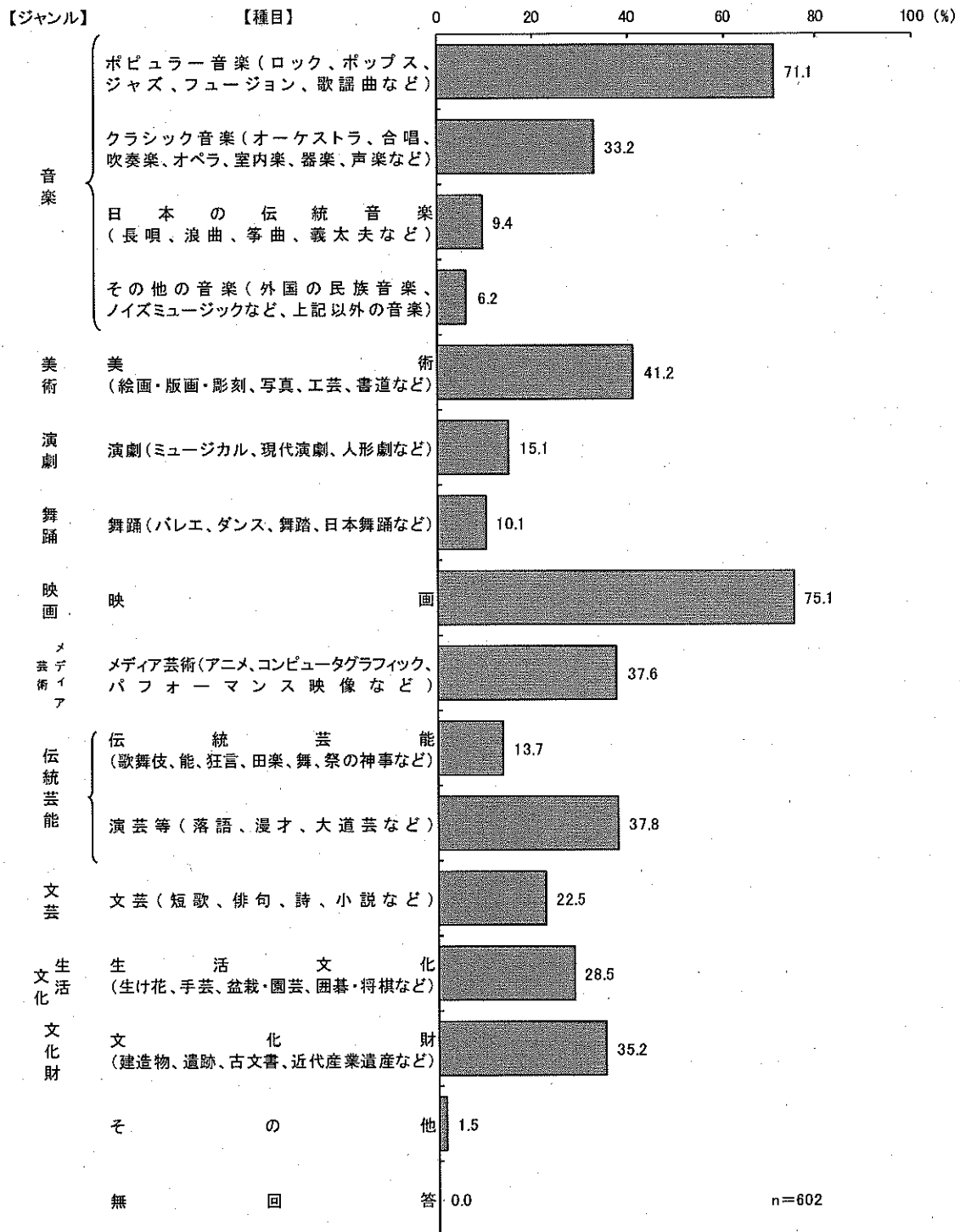
文化・芸術を鑑賞する機会が「ある」とした割合は東部地区が80.2%と最も高く、次いで中部地区の78.7%、西部地区の76.6%となっている。

【図1-1-iii 地区別 文化・芸術のメディアによる鑑賞機会】



1-2 文化・芸術のメディアによる鑑賞内容

問2 問1で「1. ある」と回答された方にお聞きます。昨年1年間に、メディア(テレビ、インターネット、DVD、電子・紙媒体書籍等)を通して鑑賞された文化・芸術はどれですか。次の中から、当てはまるものすべてに○をつけてください。



<全体>

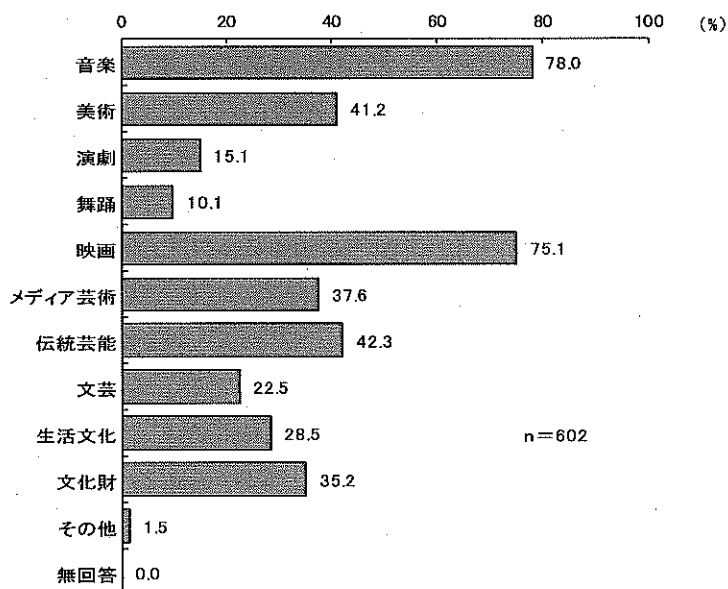
昨年1年間にメディアを通して文化・芸術を鑑賞する機会が「ある」と回答した人の鑑賞内容は、第1位が「映画」で75.1%、次いで「ポピュラー音楽」が71.1%、「美術」が41.2%で続いている。

<ジャンル別>

第1位は「音楽」が78.0%、次いで「映画」が75.1%、「伝統芸能」が42.3%、「美術」が41.2%の順となり、この上位4ジャンルが4割以上で他のジャンルより高い割合となっている。一方で、「演劇」「舞踊」などは、昨年1年間にメディアを通して鑑賞する機会が少ないジャンルであった。

なお、同一ジャンルで複数種目の回答があるため、各ジャンルの数値は各種目の総和にはならない(以下同様)。

【図1-2-i ジャンル別 文化・芸術のメディアによる鑑賞内容】



※過去の調査では、「演劇」「伝統芸能」「演芸等」が『演劇』というジャンルに統合されていたが、本調査では「演劇」を『演劇』、「伝統芸能」「演芸等」を『伝統芸能』に区分けしている。また、「映画」「メディア芸術」は『映画』に統合されていたが、これも「映画」は『映画』、「メディア芸術」は『メディア芸術』に区分けした(以下同様)。

<性・年代別 鑑賞内容の上位種目>

鑑賞をした種目を性・年代別でみると、第1位は、男性の18～29歳、30～39歳、60～69歳、70歳以上が「映画」で、40～49歳、50～59歳が「ポピュラー音楽」となっている。また、女性の18～29歳から60～69歳までが「映画」で、70歳以上では「ポピュラー音楽」と「美術」が同率となった。

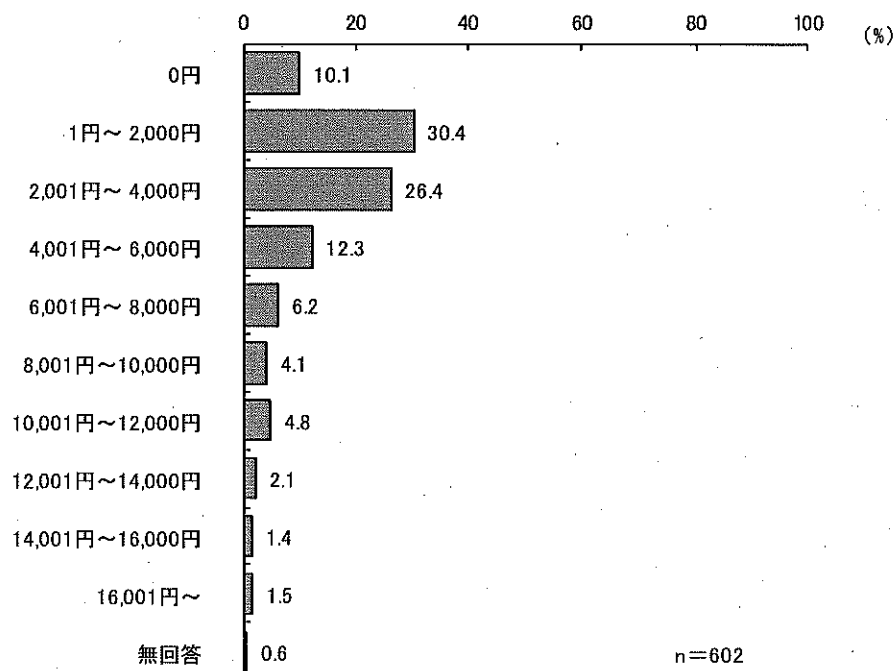
【図1-2-ii 性・年代別 文化・芸術のメディアによる鑑賞内容の上位種目】

(%)

性	年代	件数	1位	2位	3位	4位	5位
男性	18～29歳	36	映画 78.6	ポピュラー音楽 71.4	メディア芸術 64.3	演芸等 21.4	生活文化/文化財 14.3
	30～39歳	37	映画 88.0	ポピュラー音楽 84.0	メディア芸術 60.0	文化財 52.0	演芸等 40.0
	40～49歳	48	ポピュラー音楽 88.2	映画 76.5	メディア芸術/演芸等 52.9		文化財 43.1
	50～59歳	42	ポピュラー音楽 88.7	映画 80.6	メディア芸術 40.3	美術 38.7	生活文化/文化財 27.4
	60～69歳	47	映画 77.0	ポピュラー音楽 62.2	美術 45.9	演芸等 41.9	文化財 37.8
	70歳以上	76	映画 61.4	美術/演芸等 56.1		ポピュラー音楽/文化財 49.1	
女性	18～29歳	46	映画 88.9	ポピュラー音楽 83.3	メディア芸術 66.7	美術 33.3	クラシック音楽 27.8
	30～39歳	45	映画 80.6	ポピュラー音楽 74.2	メディア芸術 61.3	クラシック音楽/演芸等 35.5	
	40～49歳	67	映画 93.0	ポピュラー音楽 78.9	メディア芸術 46.5	クラシック音楽 40.8	美術 35.2
	50～59歳	48	映画 85.9	ポピュラー音楽 73.2	美術 50.7	演芸等 36.6	生活文化/文化財 33.8
	60～69歳	50	映画 67.1	ポピュラー音楽 64.6	美術 54.4	文化財 48.1	演芸等/生活文化 41.8
	70歳以上	59	ポピュラー音楽/美術 54.5		演芸等/生活文化 47.7		クラシック音楽 43.2

1-3 メディアによる文化・芸術鑑賞への月間支出額

問3 問1で「1. ある」と回答された方にお聞きします。あなたは、昨年1年間でメディアを通じた文化・芸術鑑賞のために、1か月平均いくら位お金(ダウンロード代、レンタル代、書籍購入代など)を支出していますか。次の中から、最も近い金額に○をつけてください。



<全体>

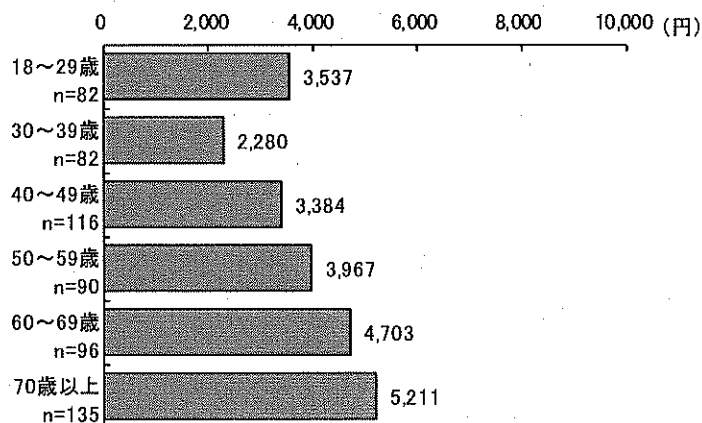
昨年1年間にメディアを通して文化・芸術鑑賞をする機会があった人の月間支出額(ダウンロード代、レンタル代、書籍購入代など)は、「1円～2,000円」が30.4%で最も高く、次いで「2,001円～4,000円」が26.4%、「4,001円～6,000円」が12.3%の順となっている。

なお、「16,001円以上」との回答は1.5%であった。

<年代別>

年代別でみると、文化・芸術鑑賞への1人当たりの月間支出額は下のグラフの通りとなった(算出方法は下記参照)。70歳以上が最も高く、5,211円となっている。以下、60～69歳、50～59歳、18～29歳と続いている。

【図1-3-i 年代別 メディアによる文化・芸術鑑賞への月間支出額】

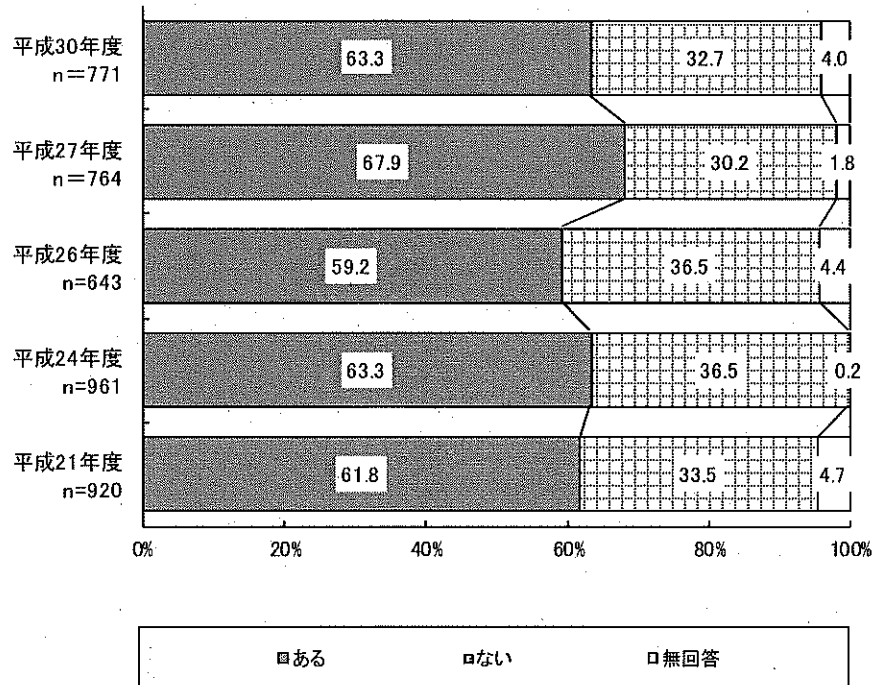


算出方法

- ①本設問の選択肢は、「1円～2,000円」といったように2,000円の幅があるため、その中央値を単価とする。(例:「1円～2,000円」であれば1,000円、「2,001円～4,000円」であれば3,000円)
- ②年代ごとに各単価の回答者数を出し、単価に乗ずる。これを合計して、各年代の合計支出額を算出する。
- ③②の合計支出額を、「無回答」を除く各年代の回答者数で除したものを、1人当たりの平均支出額とする。

1-4 文化・芸術の直接鑑賞機会

問4 あなたは、昨年1年間に、ホールや劇場、映画館や美術館・博物館などの会場で、直接、文化・芸術を鑑賞する機会がありましたか。



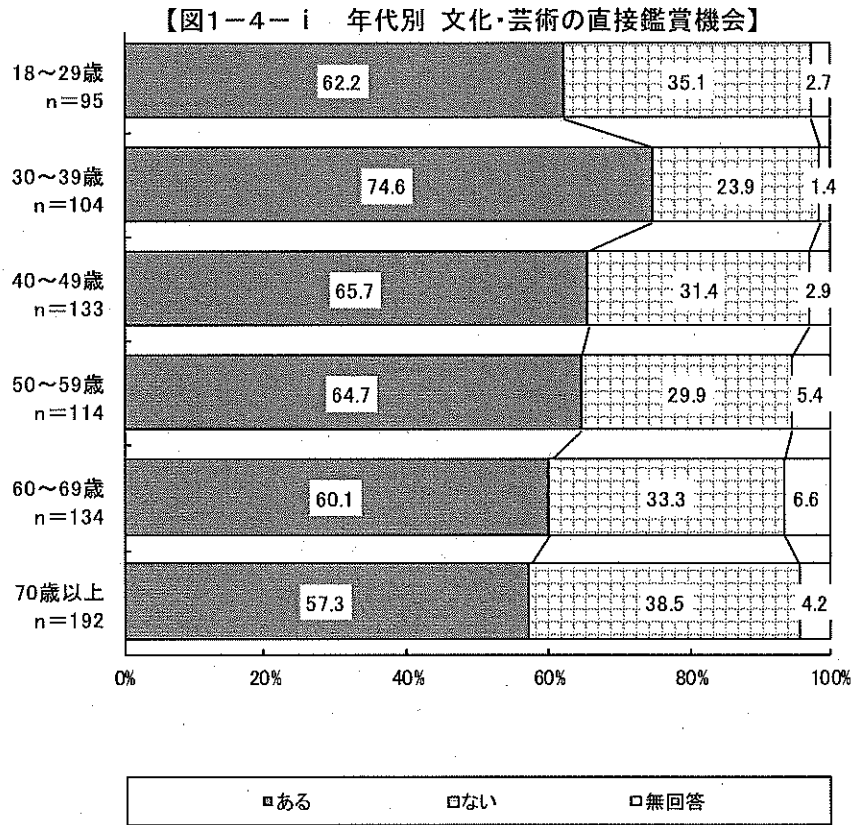
<全体>

昨年1年間に文化・芸術を直接鑑賞する機会が「ある」と回答した割合は63.3%で、「ない」と回答した割合は32.7%であった。

過去の調査と比較すると、文化・芸術を直接鑑賞する機会が「ある」とした人は前回の67.9%から4.6ポイント低くなり、平成24年度調査と同率の結果となった。

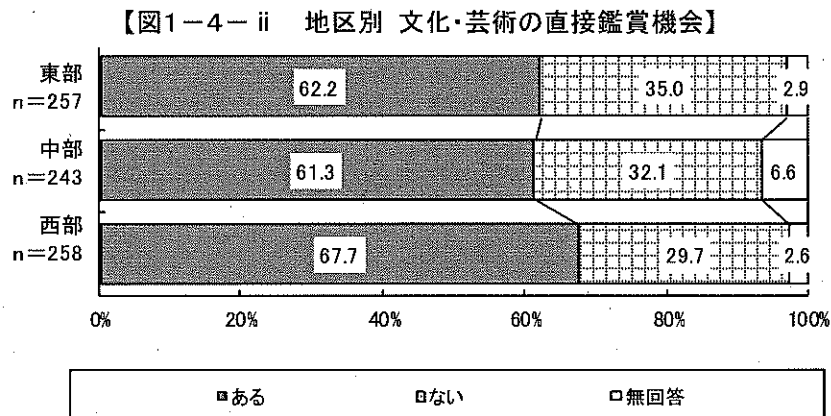
<年代別>

文化・芸術を直接鑑賞する機会が「ある」とした割合の第1位は30～39歳の74.6%で、次いで40～49歳の65.7%、50～59歳の64.7%となっている。70歳以上では57.3%と唯一5割台にとどまっている。



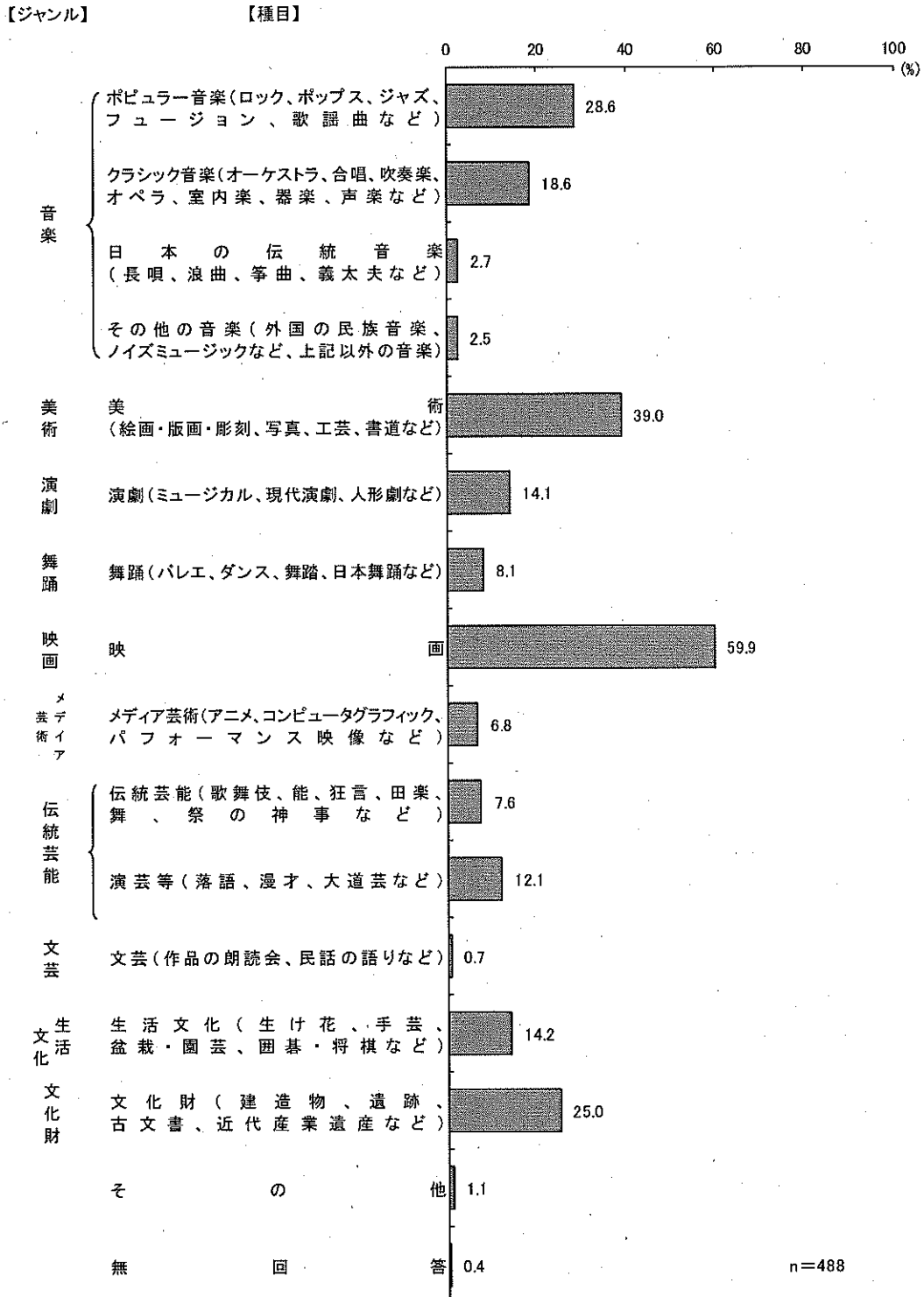
<地区別>

文化・芸術を直接鑑賞する機会が「ある」とした割合は西部地区が67.7%と最も高く、次いで東部地区の62.2%、中部地区の61.3%となっている。



1-5 直接鑑賞した文化・芸術の内容

問5 問4で「1. ある」と回答された方にお聞きます。昨年1年間に、直接鑑賞された文化・芸術は次のどれですか。次の中から、当てはまるものすべてに○をつけてください。



【図1-5-i 直接鑑賞した文化・芸術の内容】

(%)

【ジャンル】	【種目】	平成21年度	平成24年度	平成26年度	平成27年度	平成30年度
音楽	ポピュラー	27.2	28.3	30.2	30.7	28.6
	クラシック	25.5	20.5	21.4	21.1	18.6
	伝統音楽	4.6	5.6	2.8	1.4	2.7
	その他音楽	4.2	3.2	3.8	1.8	2.5
美術	美術	49.0	50.5	46.2	40.9	39.0
演劇	演劇	19.2	17.2	16.0	17.6	14.1
舞踊	舞踊	10.5	8.0	9.6	8.1	8.1
映画	映画	59.4	60.9	53.5	59.1	59.9
メディア芸術	メディア芸術	3.2	2.8	2.5	5.1	6.8
伝統芸能	伝統芸能	6.2	6.2	8.9	9.9	7.6
	演芸等	17.4	13.4	14.8	13.3	12.1
文芸	文芸	3.9	4.1	4.7	1.2	0.7
生活文化	生活文化	23.6	20.0	26.0	16.1	14.2
文化財	文化財	20.9	22.3	29.5	28.1	25.0
その他		4.0	1.4	2.9	1.8	1.1
無回答		1.4	0.8	0.0	0.2	0.4

<全体>

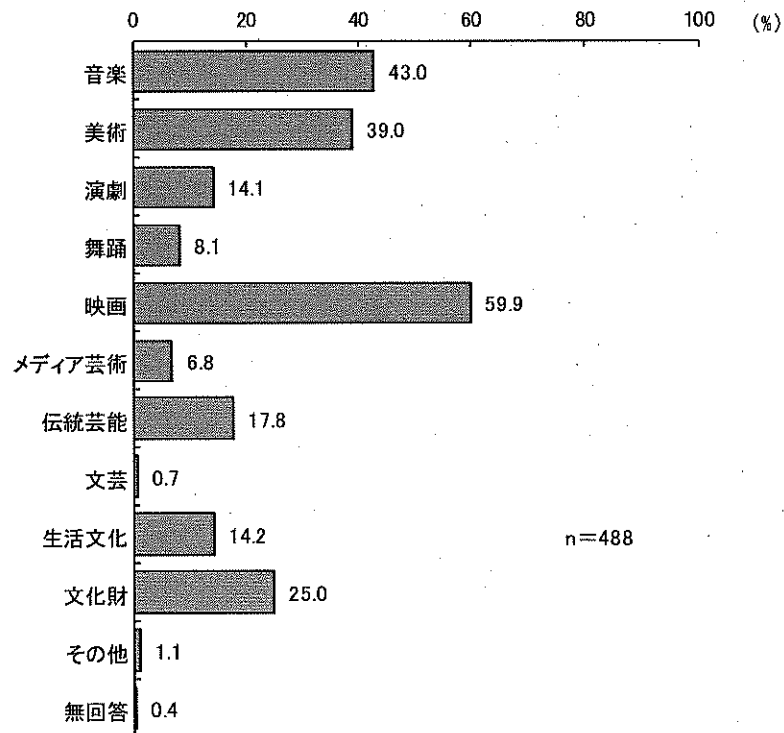
昨年1年間に文化・芸術を直接鑑賞する機会が「ある」と回答した人の鑑賞内容は、第1位が「映画」で59.9%、次いで「美術」が39.0%、「ポピュラー音楽」が28.6%が続いている。

過去の調査と比較すると、平成30年度調査は「伝統音楽」「その他音楽」「映画」「メディア芸術」は増加しているものの、全般的には平成27年度調査と比べ減少している。

<ジャンル別>

第1位が「映画」で59.9%、次いで「音楽」43.0%、「美術」39.0%の順となり、この上位3ジャンルが3割以上となって他のジャンルより高い割合となっている。一方で、「舞踊」「メディア芸術」「文芸」などは一桁台となり、昨年1年間に直接鑑賞する機会が少ないジャンルであった。

【図1-5-ii ジャンル別 直接鑑賞した文化・芸術の内容】



<性・年代別 直接鑑賞内容の上位種目>

直接鑑賞した種目を性・年代別でみると、第1位は、男性の18～29歳から60～69歳までが「映画」で、70歳以上は「映画」と「美術」が同率となっている。また、女性は18～29歳から50～59歳までが「映画」で、60～69歳と70歳以上が「美術」となった。

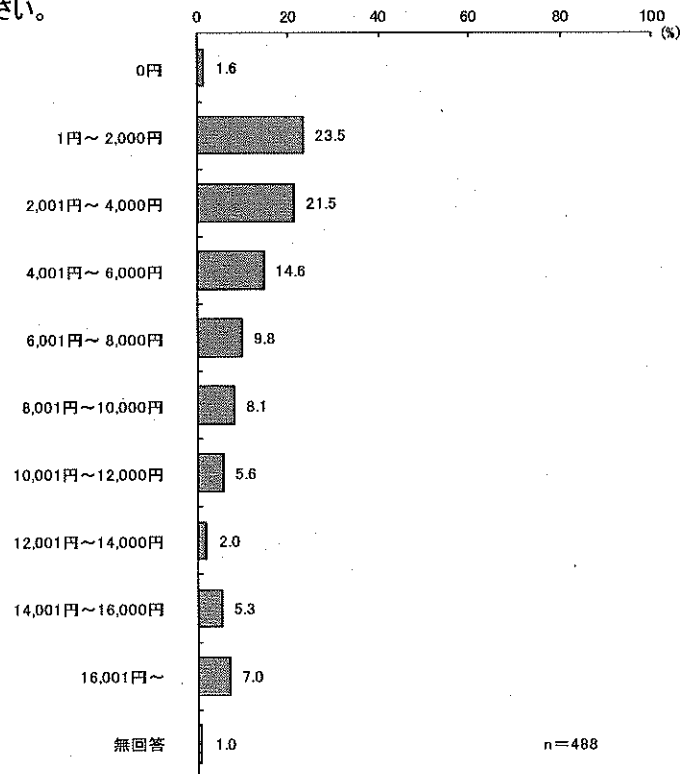
【図1-5-iii 性・年代別 直接鑑賞した文化・芸術の内容の上位種目】

(%)

性	年代	件数	1位	2位	3位	4位	5位
男性	18～29歳	15	映画 83.3	美術 33.3	ポピュラー音楽/クラシック音楽/演劇/メディア芸術 16.7		
	30～39歳	34	映画 69.6	文化財 39.1	美術 26.1	ポピュラー音楽/クラシック音楽/演芸等 13.0	
	40～49歳	35	映画 56.8	美術 29.7	文化財 27.0	ポピュラー音楽 18.9	メディア芸術 16.2
	50～59歳	29	映画 73.8	ポピュラー音楽 38.1	美術 19.0	文化財 16.7	演劇 11.9
	60～69歳	38	映画 58.3	美術 38.3	文化財 31.7	ポピュラー音楽 25.0	クラシック音楽 16.7
	70歳以上	55	美術/映画 48.8		文化財 36.6	演芸等/生活文化 24.4	
女性	18～29歳	44	映画 70.6	ポピュラー音楽 52.9	美術 35.3	クラシック音楽 23.5	演劇/舞踊 17.6
	30～39歳	44	映画 73.3	ポピュラー音楽 23.3	美術 20.0	クラシック音楽/メディア芸術 13.3	
	40～49歳	52	映画 70.9	美術 43.6	ポピュラー音楽 38.2	クラシック音楽/文化財 25.5	
	50～59歳	45	映画 71.2	美術 42.4	ポピュラー音楽 31.8	文化財 24.2	クラシック音楽/生活文化 16.7
	60～69歳	43	美術 58.8	映画 48.5	生活文化 29.4	ポピュラー音楽/文化財 26.5	
	70歳以上	55	美術 51.2	生活文化 39.0	文化財 31.7	ポピュラー音楽/クラシック音楽/映画/伝統芸能 24.4	

1-6 直接鑑賞への1公演平均支出額

問6 問4で「1. ある」と回答された方にお聞きます。あなたは、昨年1年間で文化・芸術鑑賞のために、1公演平均いくら位お金(チケット代、交通費など)を支出していますか。次の中から、最も近い金額に○をつけてください。



【図1-6-i 直接鑑賞への1公演平均支出額】

(%)

【項目】	平成21年度	平成24年度	平成26年度	平成27年度	平成30年度
0円	4.2	3.6	2.5	1.9	1.6
1円~2,000円	37.8	30.4	17.7	21.4	23.5
2,001円~4,000円	26.2	28.6	19.7	22.1	21.5
4,001円~6,000円	13.5	13.2	14.7	13.4	14.6
6,001円~8,000円	6.5	6.6	9.0	10.1	9.8
8,001円~10,000円	3.5	6.2	10.3	10.7	8.1
10,001円~12,000円	4.0	3.3	5.5	6.1	5.6
12,001円~14,000円	0.7	1.9	3.4	3.6	2.0
14,001円~16,000円	1.2	1.9	6.5	3.4	5.3
16,001円~	1.2	3.3	9.3	6.4	7.0
無回答	1.1	1.0	1.4	0.8	1.0

<全体>

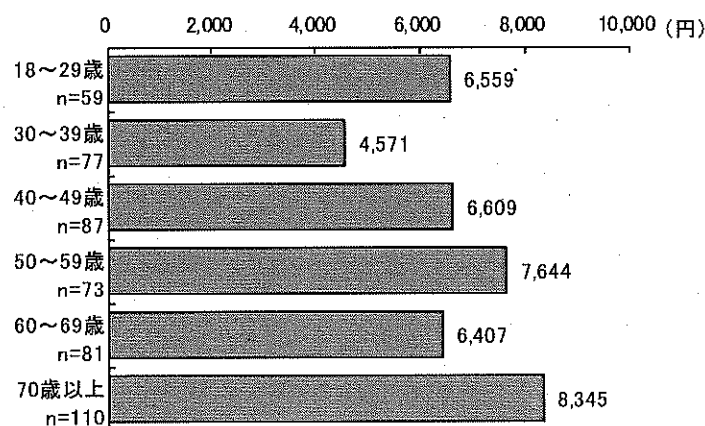
昨年1年間に文化・芸術鑑賞をする機会があった人の文化・芸術鑑賞に関する1公演当たりの平均支出額は、「1円～2,000円」が23.5%で最も高く、次いで「2,001円～4,000円」が21.5%、「4,001円～6,000円」が14.6%の順となっている。なお、「16,001円以上」との回答は7.0%であった。

過去の調査と比較すると、「0円」と回答する割合は減少傾向となっている。一方で平成27年度調査と比べ、「1円～2,000円」「4,001円～6,000円」「14,001円～16,000円」「16,001円以上」の価格帯ではそれぞれわずかながら増加している。

<年代別>

年代別でみると、文化・芸術鑑賞への1公演平均支出額は下のグラフの通りとなった（算出方法は下記参照）。70歳以上が最も高く、8,345円となっている。以下、50～59歳、40～49歳、18～29歳と続いている。

【図1-6-ii 年代別 直接鑑賞への1公演平均支出額】

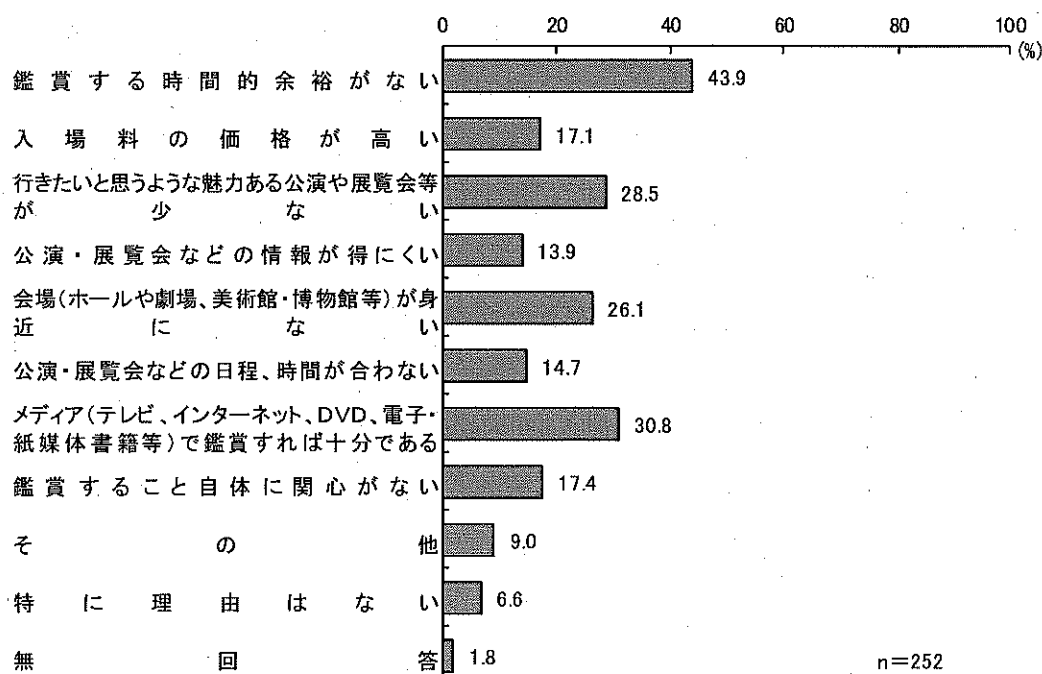


算出方法

- ①本設問の選択肢は、「1円～2,000円」といったように2,000円の幅があるため、その中央値を単価とする。（例：「1円～2,000円」であれば1,000円、「2,001円～4,000円」であれば3,000円）
- ②年代ごとに各単価の回答者数を出し、単価に乗ずる。これを合計して、各年代の合計支出額を算出する。
- ③②の合計支出額を、「無回答」を除く各年代の回答者数で除したものを、1人当たりの平均支出額とする。

1-7 直接鑑賞しなかった理由

問7 問4で「2. ない」と回答された方にお聞きします。昨年、あなたが鑑賞に出かけなかったのは、どのような理由からですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。



【図1-7-i 直接鑑賞しなかった理由】

【項目】	(%)			
	平成24年度	平成26年度	平成27年度	平成30年度
鑑賞する時間的余裕がない	50.1	34.7	45.0	43.9
入場料の価格が高い	19.0	10.4	18.7	17.1
行きたいと思うような魅力ある公演や展覧会等が少ない	24.6	18.2	26.5	28.5
公演・展覧会などの情報が得にくい	20.6	11.0	13.8	13.9
会場が身近にない	22.1	15.4	23.5	26.1
公演・展覧会などの日程、時間が合わない	-	7.6	13.7	14.7
メディアで鑑賞すれば十分である	15.8	10.6	30.5	30.8
鑑賞すること自体に関心がない	14.8	13.7	11.6	17.4
その他	5.4	11.0	14.4	9.0
特に理由はない	9.1	6.6	5.8	6.6
無回答	1.8	12.8	0.4	1.8

<全体>

昨年1年間に文化・芸術鑑賞をしなかった人の理由の第1位は、「鑑賞する時間的余裕がない」が43.9%と最も高く、次いで「メディアで鑑賞すれば十分である」が30.8%、「行きたいと思うような魅力ある公演や展覧会等が少ない」が28.5%と続いている。また、「会場が身近にない」も26.1%と2割超となっている。

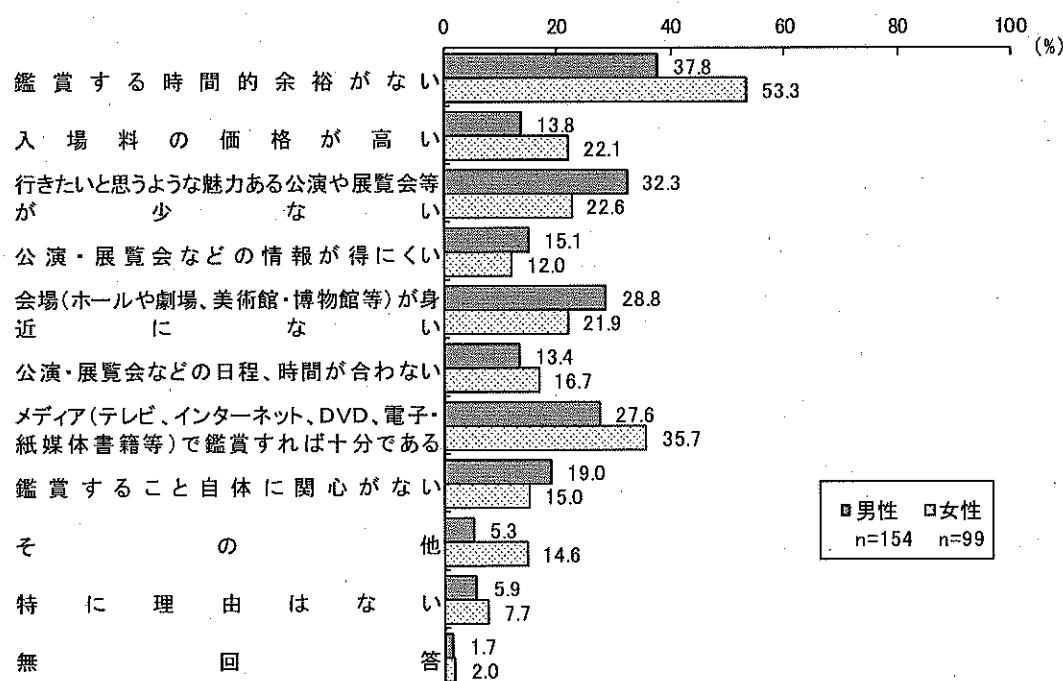
一方、「鑑賞すること自体に関心がない」は17.4%となっている。

<性別>

性別でみると、男女ともに「鑑賞する時間的余裕がない」が第1位となっているが、男性が37.8%、女性が53.3%と15.5ポイントの大きな開きがある。

なお、「鑑賞すること自体に関心がない」は、男性は19.0%で、女性の15.0%を4.0ポイント上回っている。

【図1-7-ii 性別 直接鑑賞しなかった理由】

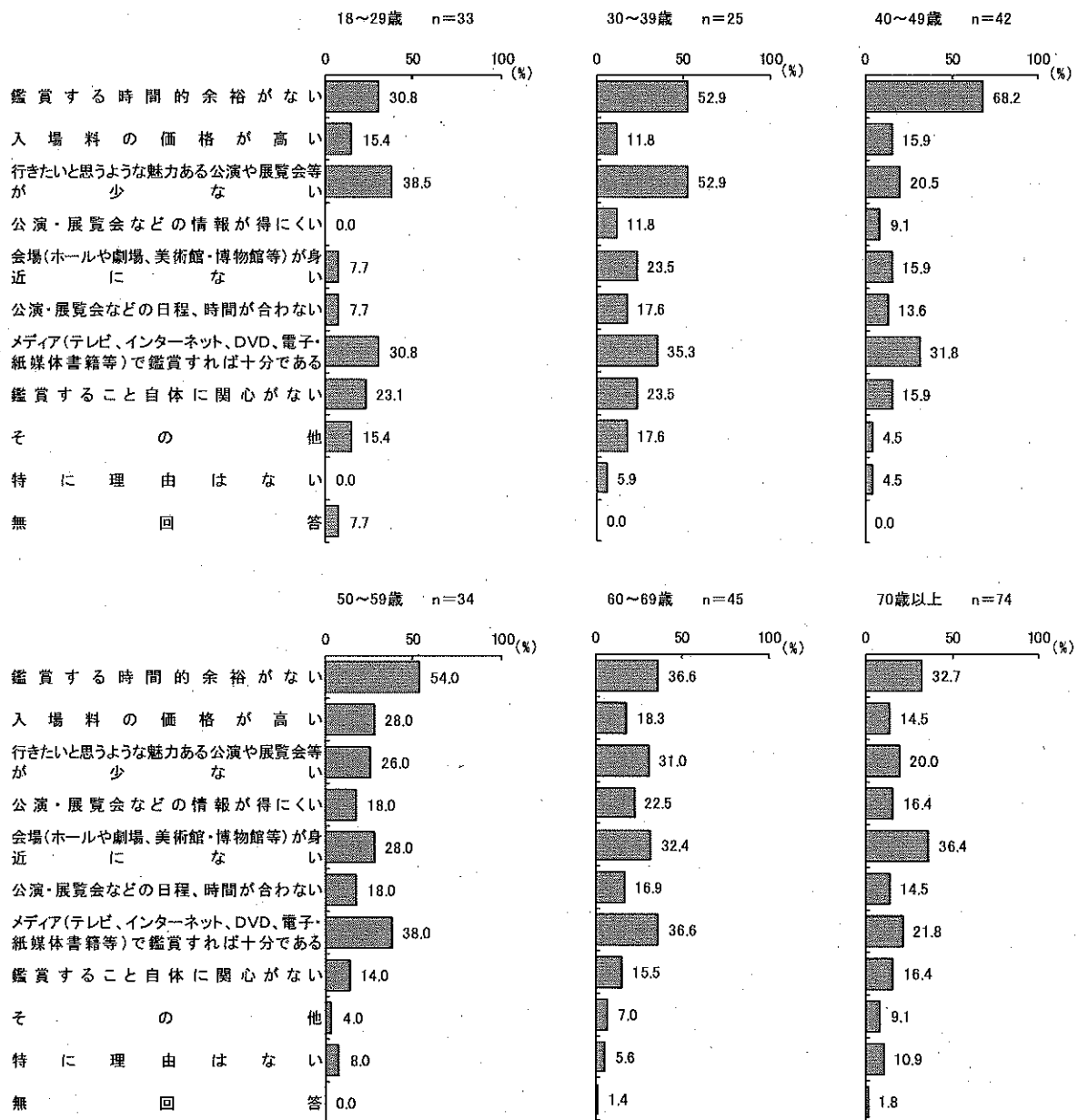


<年代別>

「鑑賞する時間的余裕がない」が30～39歳から50～59歳までで半数を超え、第1位となっており、40～49歳では68.2%と特に高い割合を占めている。また、他の年代は18～29歳では「行きたいと思うような魅力ある公演や展覧会等が少ない」が38.5%、60～69歳では「鑑賞する時間的余裕がない」と「メディアで鑑賞すれば十分である」がともに36.6%、70歳以上では「会場が身近にない」が36.4%となり第1位となっている。

また、「鑑賞すること自体に関心がない」は18～29歳から30～39歳までで2割超となっており、他の年代に比べて高い割合となっている。

【図1-7-iii 年代別 直接鑑賞しなかった理由】

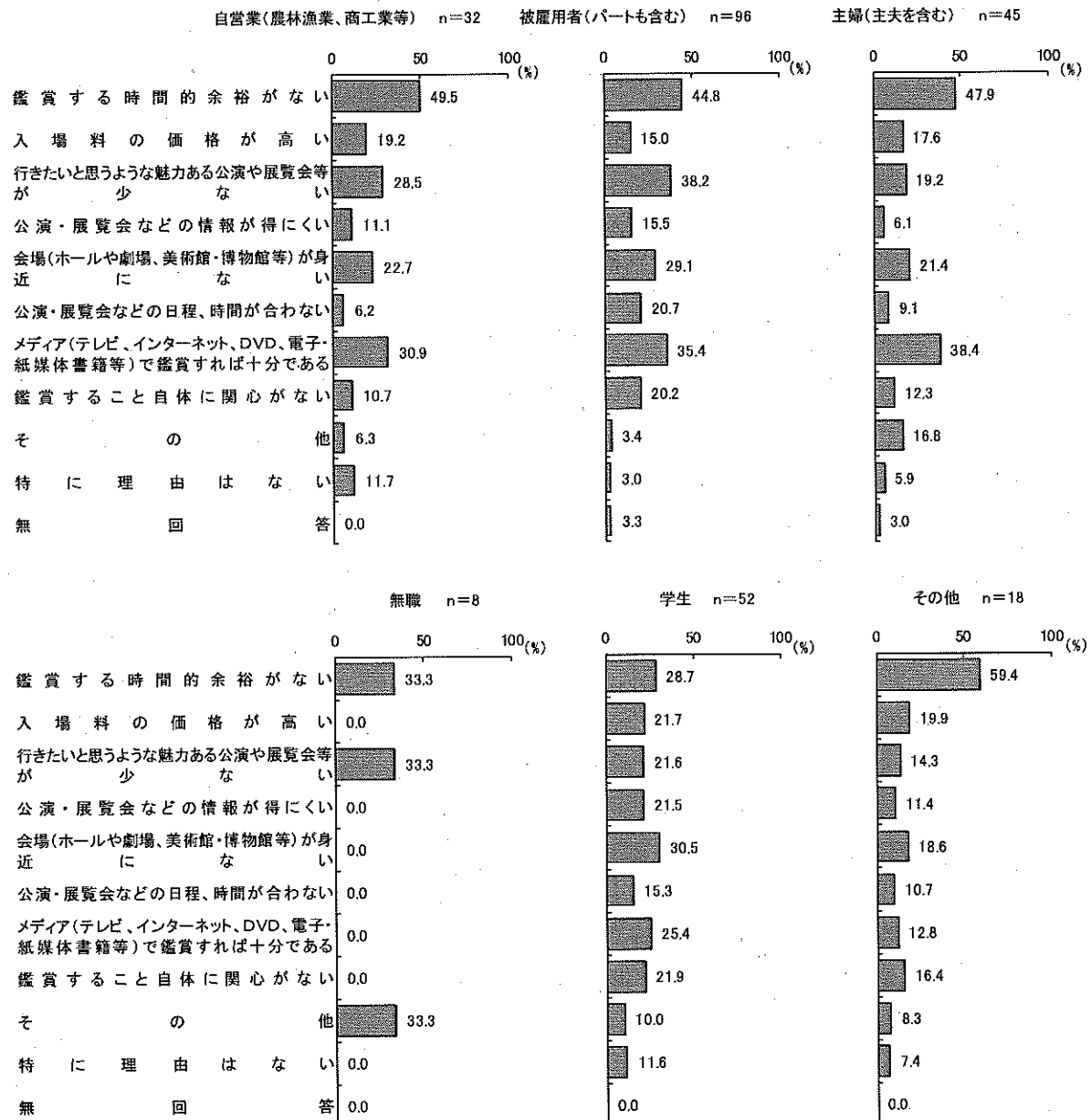


<職業別>

「鑑賞する時間的余裕がない」は、自営業（農林漁業、商工業等）、被雇用者（パートも含む）、主婦（主夫を含む）のいずれにおいても第1位となっており、自営業（農林漁業、商工業等）では49.5%と比較的高い割合を占めている。また、学生では「会場が身近にない」が30.5%となり第1位となっている。

また、「鑑賞すること自体に関心がない」は被雇用者（パートも含む）と学生で2割超となっており、他の職業に比べて高い割合となっている。

【図1-7-iv 職業別 直接鑑賞しなかった理由】

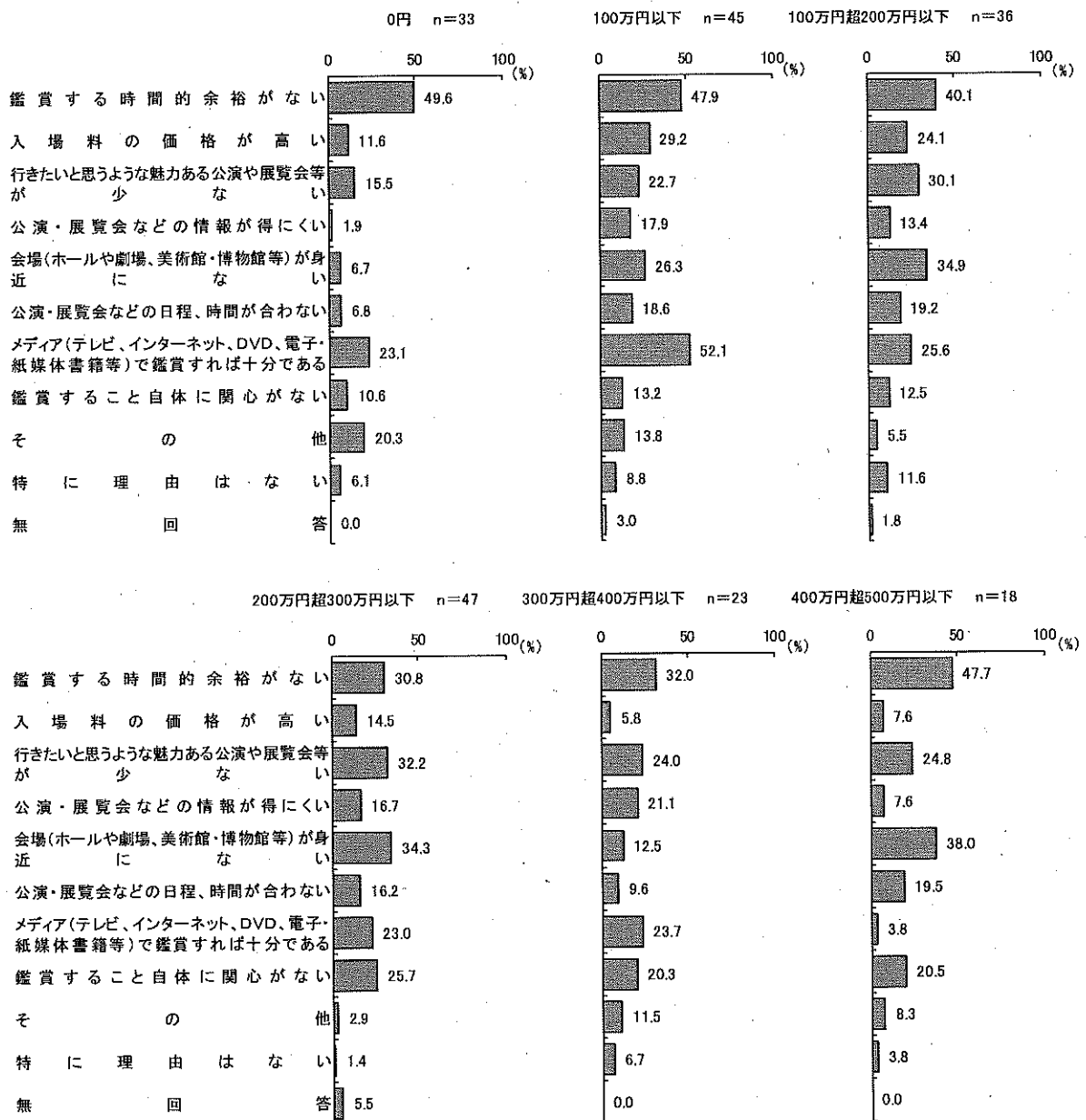


<収入別>

「鑑賞する時間的余裕がない」は、100万円以下と200万円超300万円以下を除く、いずれにおいても第1位となっており、500万円超600万円以下では69.9%と特に高い割合を占めている。また、100万円以下では「メディアで鑑賞すれば十分である」が52.1%、200万円超300万円以下では「会場が身近にない」が34.3%となり第1位となっている。

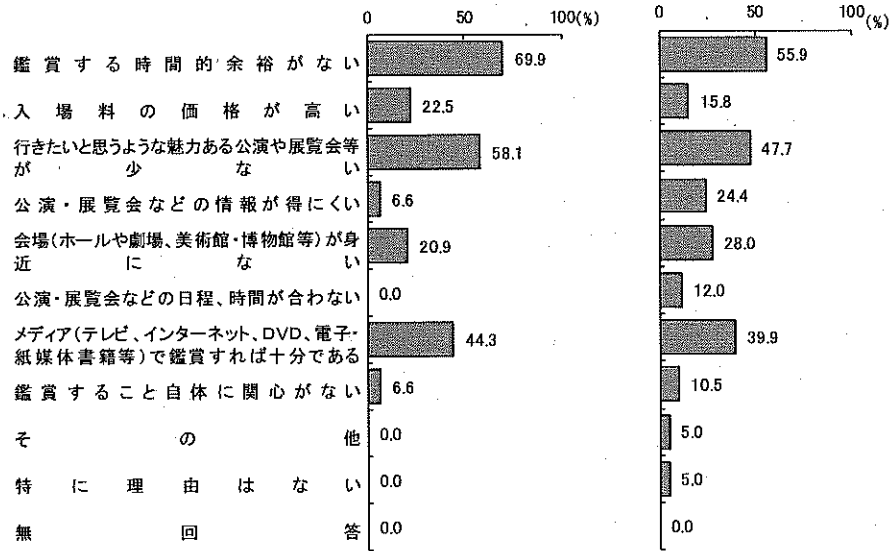
また、「鑑賞すること自体に関心がない」は200万円超300万円以下と300万円超400万円以下、400万円超500万円以下でそれぞれ2割超となっており、他の収入に比べて高い割合となっている。

【図1-7-v 収入別 直接鑑賞しなかった理由】



500万円超600万円以下 n=10

600万円超 n=19

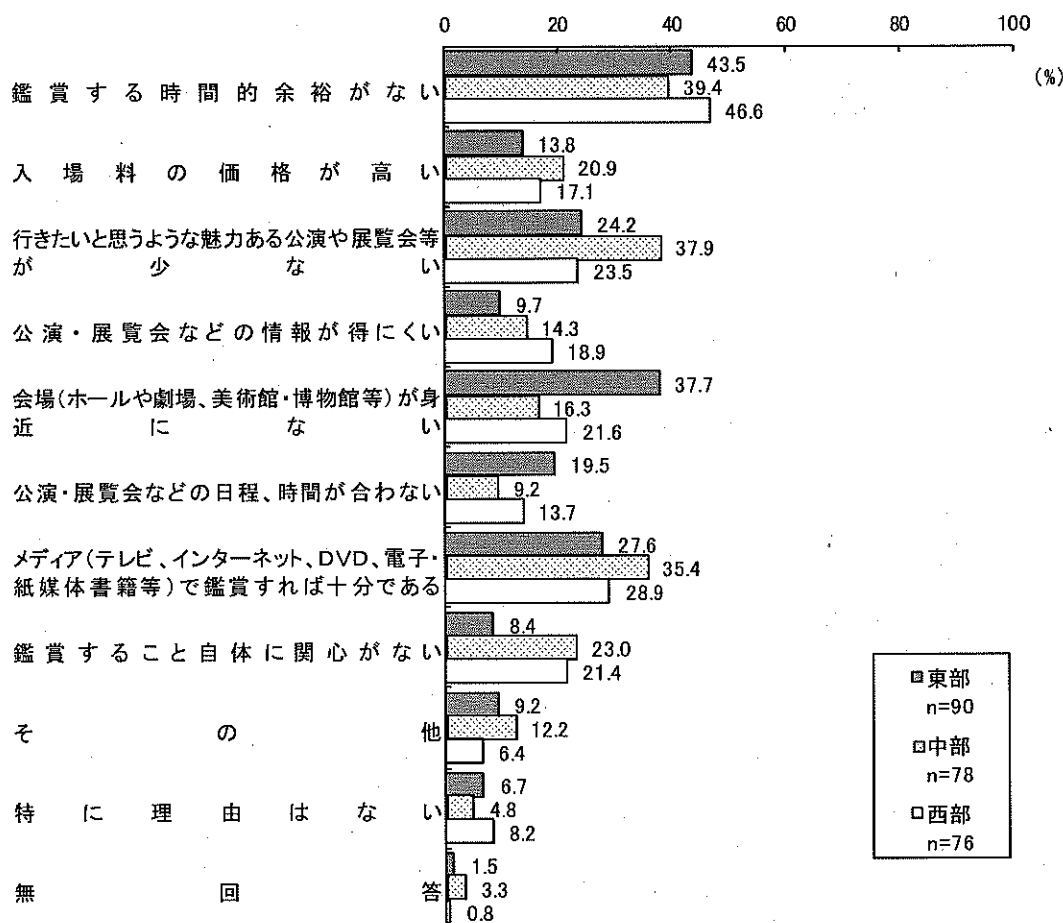


<地区別>

地区別でみると、他地区を10ポイント以上上回っている項目として「行きたいと思うような魅力ある公演や展覧会等が少ない」は中部地区で37.9%と他地区を13ポイント以上上回っている。また、「会場が身近にない」は東部地区で37.7%と他地区を16ポイント以上上回っている。

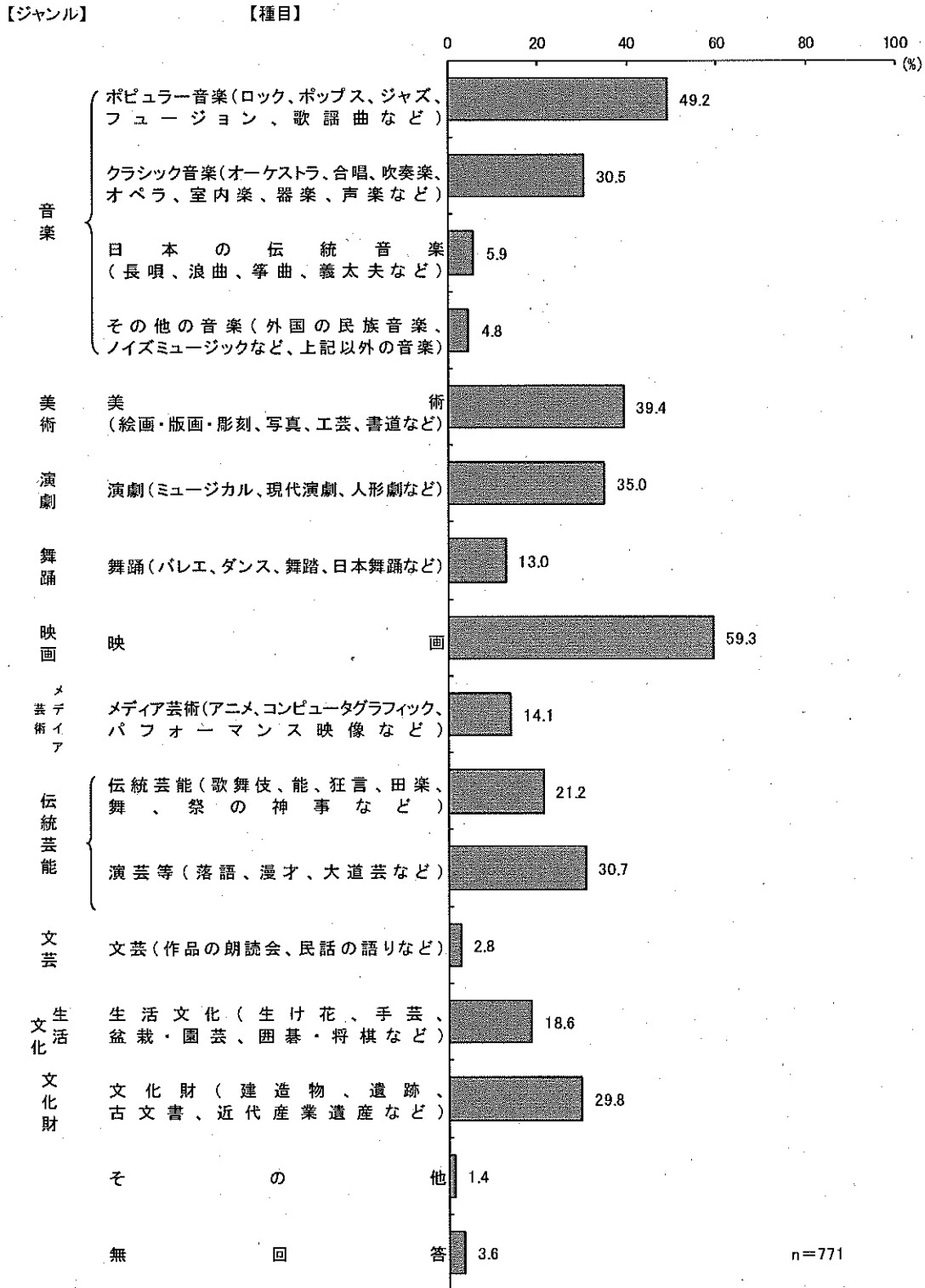
なお、「鑑賞すること自体に関心がない」は中部地区が23.0%、西部地区が21.4%とともに2割超と高くなっている一方、東部地区では8.4%と13ポイント以上下回っている。

【図1-7-vi 地区別 直接鑑賞しなかった理由】



1-8 今後直接鑑賞したい内容

問8 あなたは、今後、ホールや劇場、映画館や美術館・博物館などで直接鑑賞したいと思っているものはありますか。次の中から、当てはまるものすべてに○をつけてください。



【図1-8-i 今後直接鑑賞したい内容】

(%)

【ジャンル】	【種目】	平成21年度	平成24年度	平成26年度	平成27年度	平成30年度
音楽	ポピュラー	42.9	43.3	41.0	53.8	49.2
	クラシック	33.7	31.5	30.2	33.3	30.5
	伝統音楽	7.0	6.5	7.8	4.1	5.9
	その他音楽	6.5	5.7	6.5	5.8	4.8
美術	美術	40.0	42.2	41.7	46.7	39.4
演劇	演劇	30.3	28.2	29.5	37.0	35.0
舞踊	舞踊	13.2	12.6	10.8	15.3	13.0
映画	映画	55.1	55.0	46.1	61.0	59.3
メディア芸術	メディア芸術	5.2	5.6	5.2	11.7	14.1
伝統芸能	伝統芸能	16.3	20.3	21.8	25.2	21.2
	演芸等	29.6	26.9	30.2	30.9	30.7
文芸	文芸	3.3	3.3	4.4	3.8	2.8
生活文化	生活文化	17.6	16.7	23.2	18.9	18.6
文化財	文化財	22.1	26.1	26.7	35.4	29.8
その他		1.0	0.6	1.3	1.9	1.4
無回答		3.7	3.0	3.3	3.3	3.6

<全体>

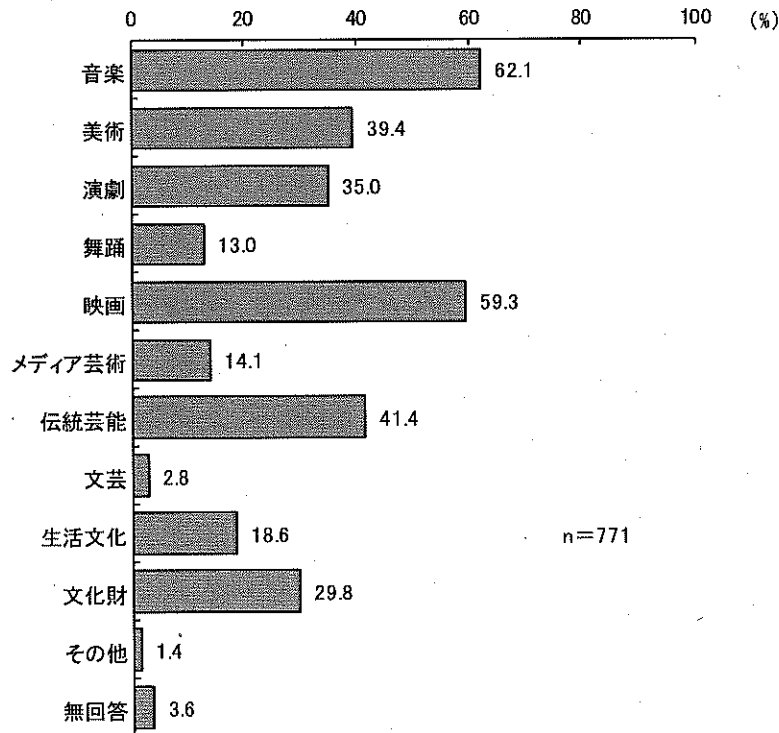
今後直接鑑賞したい内容の第1位は「映画」が59.3%と最も高く、次いで「ポピュラー音楽」が49.2%、「美術」が39.4%、「演劇」が35.0%と続いている。

過去の調査と比較すると「伝統音楽」と「メディア芸術」は平成27年度調査より増加した。ただし、全体的には平成27年度調査より減少傾向となっている。

<ジャンル別>

第1位が「音楽」で62.1%となっており、次いで「映画」が59.3%、「伝統芸能」が41.4%、「美術」が39.4%の順となっている。

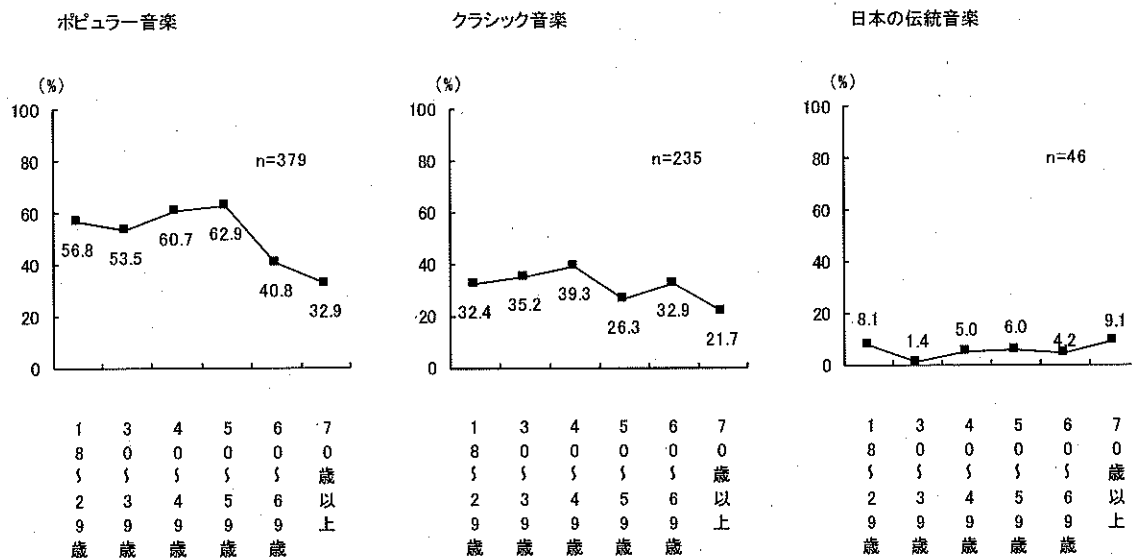
【図1-8-ii ジャンル別 今後直接鑑賞したい内容】



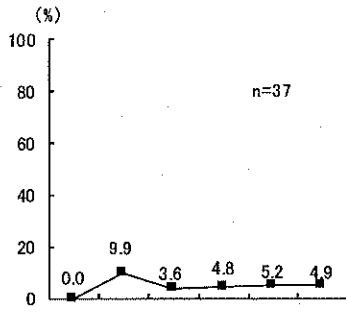
<年代別>

「ポピュラー音楽」「演劇」「映画」「メディア芸術」などは概ね年齢が低いほど割合が高い傾向があり、「美術」「演芸等」「生活文化」などは概ね年齢が高いほど割合が高い傾向がある。なお、18~29歳から60~69歳までは「映画」、70歳以上は「美術」が第1位となった。

【図1-8-iii 年代別 今後直接鑑賞したい内容】

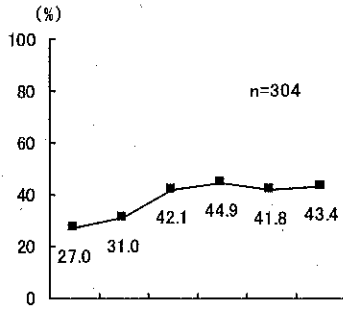


その他の音楽



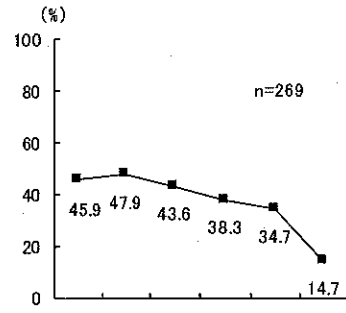
1	3	4	5	6	7
8	0	0	0	0	0
9	9	9	9	9	9
歳	歳	歳	歳	歳	歳
2	3	4	5	6	以上
9	9	9	9	9	上
歳	歳	歳	歳	歳	上

美術



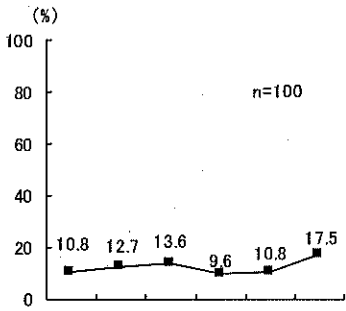
1	3	4	5	6	7
8	0	0	0	0	0
9	9	9	9	9	9
歳	歳	歳	歳	歳	歳
2	3	4	5	6	以上
9	9	9	9	9	上
歳	歳	歳	歳	歳	上

演劇



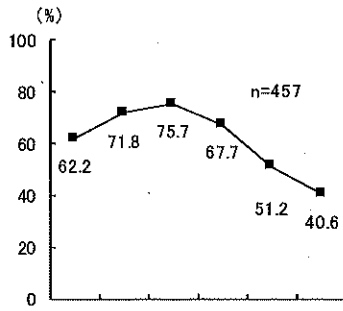
1	3	4	5	6	7
8	0	0	0	0	0
9	9	9	9	9	9
歳	歳	歳	歳	歳	歳
2	3	4	5	6	以上
9	9	9	9	9	上
歳	歳	歳	歳	歳	上

舞踊



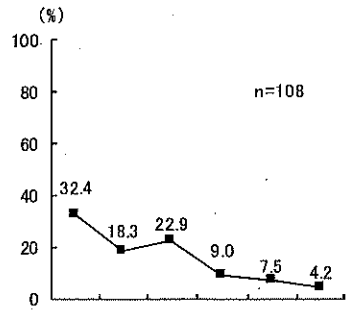
1	3	4	5	6	7
8	0	0	0	0	0
9	9	9	9	9	9
歳	歳	歳	歳	歳	歳
2	3	4	5	6	以上
9	9	9	9	9	上
歳	歳	歳	歳	歳	上

映画



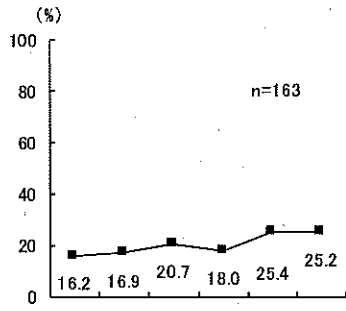
1	3	4	5	6	7
8	0	0	0	0	0
9	9	9	9	9	9
歳	歳	歳	歳	歳	歳
2	3	4	5	6	以上
9	9	9	9	9	上
歳	歳	歳	歳	歳	上

メディア芸術



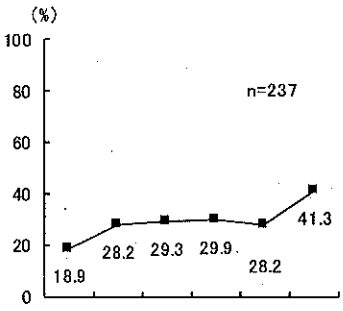
1	3	4	5	6	7
8	0	0	0	0	0
9	9	9	9	9	9
歳	歳	歳	歳	歳	歳
2	3	4	5	6	以上
9	9	9	9	9	上
歳	歳	歳	歳	歳	上

伝統芸能



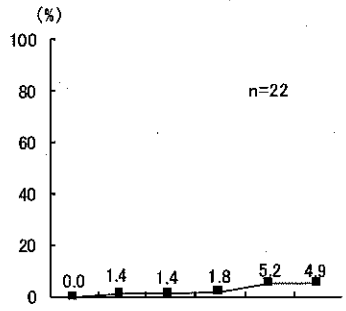
1	3	4	5	6	7
8	0	0	0	0	0
9	9	9	9	9	9
歳	歳	歳	歳	歳	歳
2	3	4	5	6	以上
9	9	9	9	9	上
歳	歳	歳	歳	歳	上

演芸等

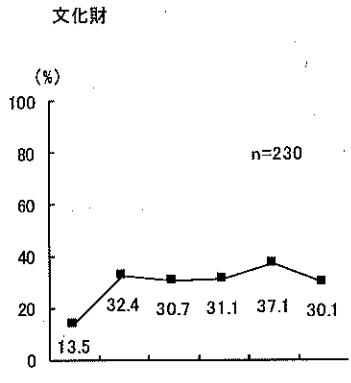
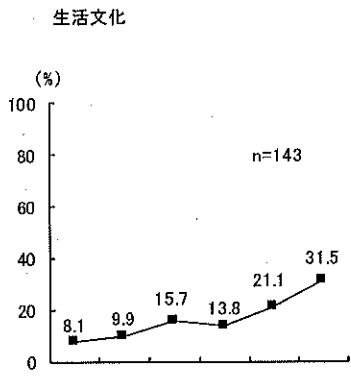


1	3	4	5	6	7
8	0	0	0	0	0
9	9	9	9	9	9
歳	歳	歳	歳	歳	歳
2	3	4	5	6	以上
9	9	9	9	9	上
歳	歳	歳	歳	歳	上

文芸



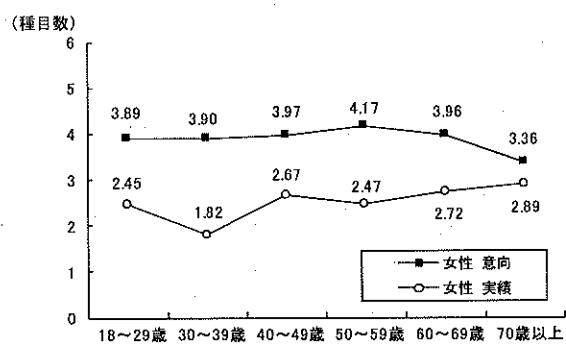
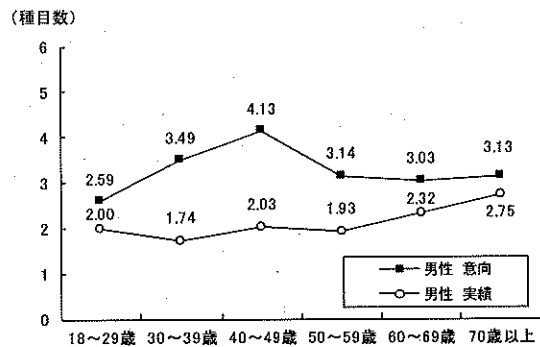
1	3	4	5	6	7
8	0	0	0	0	0
9	9	9	9	9	9
歳	歳	歳	歳	歳	歳
2	3	4	5	6	以上
9	9	9	9	9	上
歳	歳	歳	歳	歳	上



<直接鑑賞種目数平均との比較>

1-5の平均直接鑑賞種目数(実績)と今後直接鑑賞したい平均種目数(意向)を性・年代別で比較すると、男性では40~49歳での今後直接鑑賞したい平均種目数の4.13種目に対して、鑑賞した平均種目数は2.03種目、女性では30~39歳での今後直接鑑賞したい平均種目数の3.90種目に対して、鑑賞した平均種目数は1.82種目となって、それぞれ意向と実績の開きが最も大きくなっている。

【図1-8-iv 昨年1年間の平均直接鑑賞種目数(実績)と今後直接鑑賞したい平均種目数(意向)】



<性・年代別 直接鑑賞したい内容の上位種目>

今後直接鑑賞したい種目を性・年代別でみると、第1位は、男性では18～29歳から60～69歳までで「映画」となり、70歳以上では「美術」「映画」「演芸等」が同率で第1位となっている。女性は30～39歳から50～59歳までで「映画」となり、18～29歳で「ポピュラー音楽」「映画」が同率、60～69歳で「美術」、70歳以上で「生活文化」となっている。

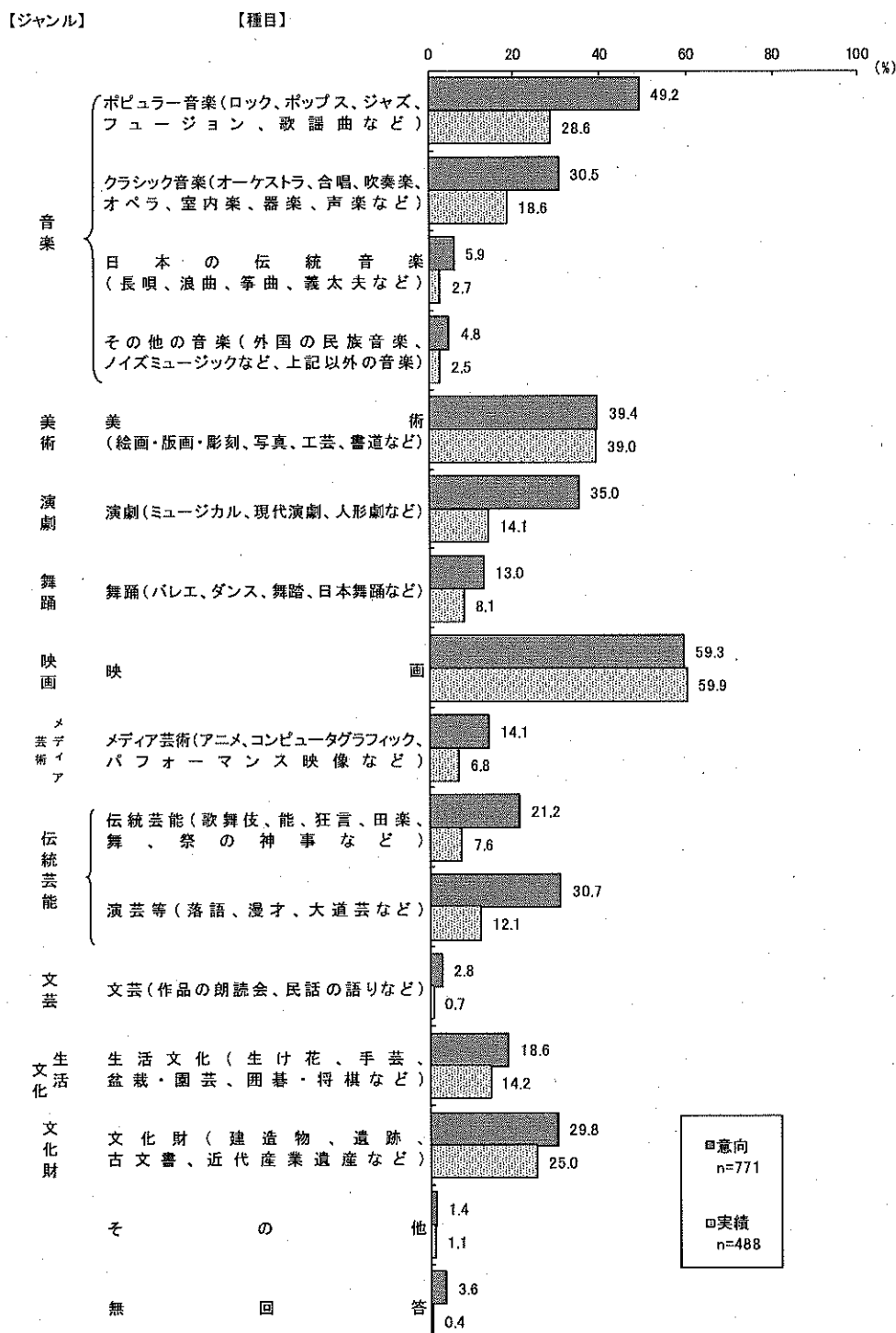
【図1-8-v 性・年代別 今後直接鑑賞したい内容の上位種目】 (％)

性	年代	件数	1位	2位	3位	4位	5位
男性	18～29歳	41	映画 56.3	ポピュラー音楽/演劇 43.8		メディア芸術 31.3	クラシック音楽 25.0
	30～39歳	53	映画 63.9	ポピュラー音楽 47.2	文化財 38.9	演芸等 36.1	クラシック音楽 33.3
	40～49歳	56	映画 76.3	ポピュラー音楽 57.6	文化財 45.8	美術 42.4	クラシック音楽/演芸等 35.6
	50～59歳	56	映画 68.3	ポピュラー音楽 59.8	美術 40.2	文化財 29.3	クラシック音楽 26.8
	60～69歳	66	映画 57.1	文化財 41.0	ポピュラー音楽 40.0	美術 35.2	クラシック音楽 29.5
	70歳以上	105	美術/映画/演芸等 50.0			文化財 35.9	ポピュラー音楽 34.6
女性	18～29歳	54	ポピュラー音楽/映画 66.7		演劇 47.6	クラシック音楽/美術 38.1	
	30～39歳	51	映画 80.0	演劇 71.4	ポピュラー音楽 60.0	クラシック音楽/美術 37.1	
	40～49歳	77	映画 75.3	ポピュラー音楽 63.0	演劇 54.3	クラシック音楽/美術 42.0	
	50～59歳	58	映画 67.1	ポピュラー音楽 65.9	演劇 52.9	美術 49.4	演芸等 38.8
	60～69歳	68	美術 48.1	演劇 46.3	映画 45.4	ポピュラー音楽 41.7	伝統芸能 37.0
	70歳以上	87	生活文化 38.5	美術 35.4	伝統芸能 32.3	ポピュラー音楽/舞踊/演芸 30.8	

＜直接鑑賞した内容との比較＞

1-5の昨年1年間の直接鑑賞実績と今後直接鑑賞したい種目（鑑賞意向）を比較すると、意向が実績を10ポイント以上上回っている種目としては、「演劇」（+20.9ポイント）、「ポピュラー音楽」（+20.6ポイント）、「演芸等」（+18.6ポイント）、「伝統芸能」（+13.6ポイント）、「クラシック音楽」（+11.9ポイント）が挙げられる。実績に比べ、意向が下回っている種目としては「映画」（-0.6ポイント）が挙げられる。

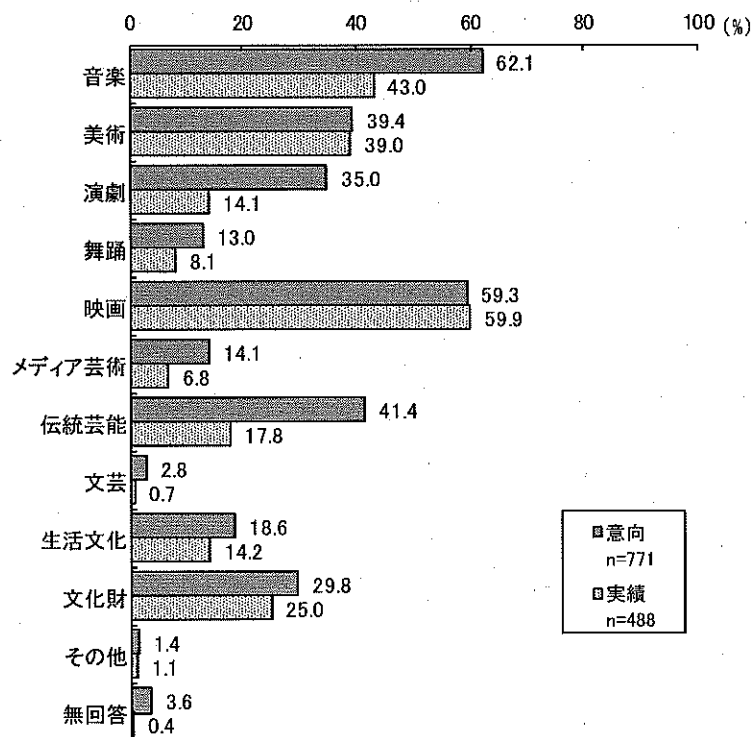
【図1-8-vi 直接鑑賞実績と直接鑑賞意向の比較】



<直接鑑賞したジャンルとの比較>

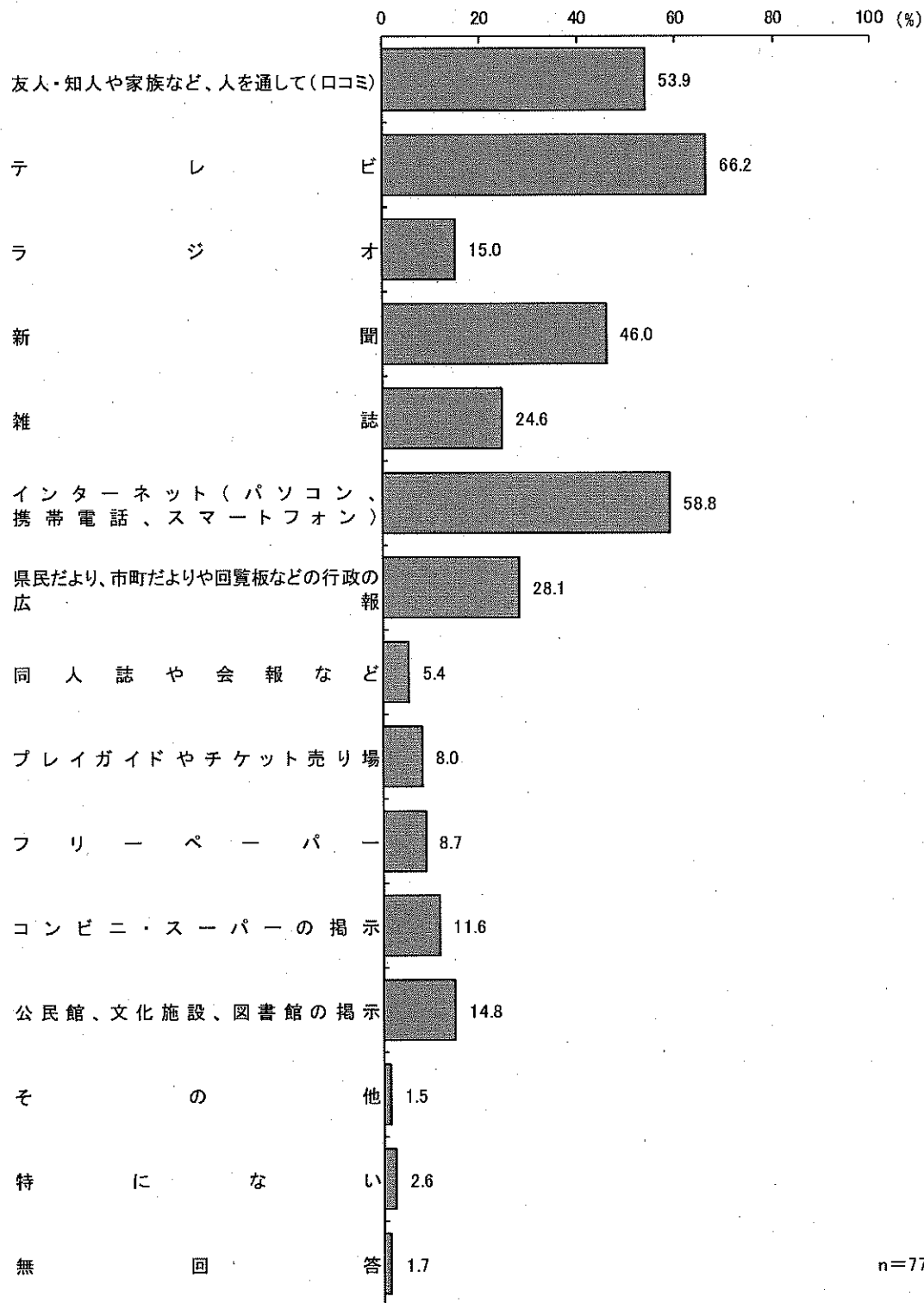
直接鑑賞種目と同様に、ジャンルについても昨年1年間の直接鑑賞実績と今後直接鑑賞したい意向を比較すると、今後の直接鑑賞意向が「伝統芸能」では23.6ポイント、「演劇」では20.9ポイント、「音楽」では19.1ポイントそれぞれ上回っている。

【図1-8-vii ジャンル別 直接鑑賞実績と直接鑑賞意向の比較】



1-9 鑑賞情報の入手媒体

問9 あなたは、直接鑑賞する機会の情報を入手するために、現在どのようなもの(媒体・手段)を利用していますか。次の中から、当てはまるものすべてに○をつけてください。



【図1-9-i 鑑賞情報の入手媒体】

(%)

【項目】	平成21年度	平成24年度	平成26年度	平成27年度	平成30年度
友人・知人や家族など、 人を通して(口コミ)	47.1	51.1	53.8	54.6	53.9
テレビ(※)	57.6	59.4	57.6	69.8	66.2
ラジオ(※)				15.5	15.0
新聞(※)	59.2	51.2	54.0	49.4	46.0
雑誌(※)				30.1	24.6
インターネット	29.0	36.7	31.2	54.5	58.8
行政の広報	32.6	27.0	35.2	28.5	28.1
同人誌や会報など	1.6	4.2	2.2	5.9	5.4
プレイガイドやチケット売り場	4.2	3.8	4.9	7.8	8.0
フリーペーパー	-	-	-	8.9	8.7
コンビニ・スーパーの掲示	7.3	7.6	7.7	12.2	11.6
公民館、文化施設、図書館の掲示	12.4	12.1	16.5	17.5	14.8
その他	0.8	2.3	1.9	2.5	1.5
特になし	5.9	5.2	5.6	2.0	2.6
無回答	3.5	3.2	3.2	1.1	1.7

※平成27年度から「テレビ」「ラジオ」は過去調査の「テレビ・ラジオ」を2項目に分けて集計。

※平成27年度から「新聞」「雑誌」は過去調査の「新聞・雑誌」を2項目に分けて集計。

<全体>

文化・芸術鑑賞についての情報を入手するために、現在利用している媒体手段は「テレビ」が66.2%と最も高く、次いで「インターネット」が58.8%、「友人・知人や家族など、人を通して(口コミ)」が53.9%と続いている。また、「新聞」は46.0%、「雑誌」は24.6%であった。

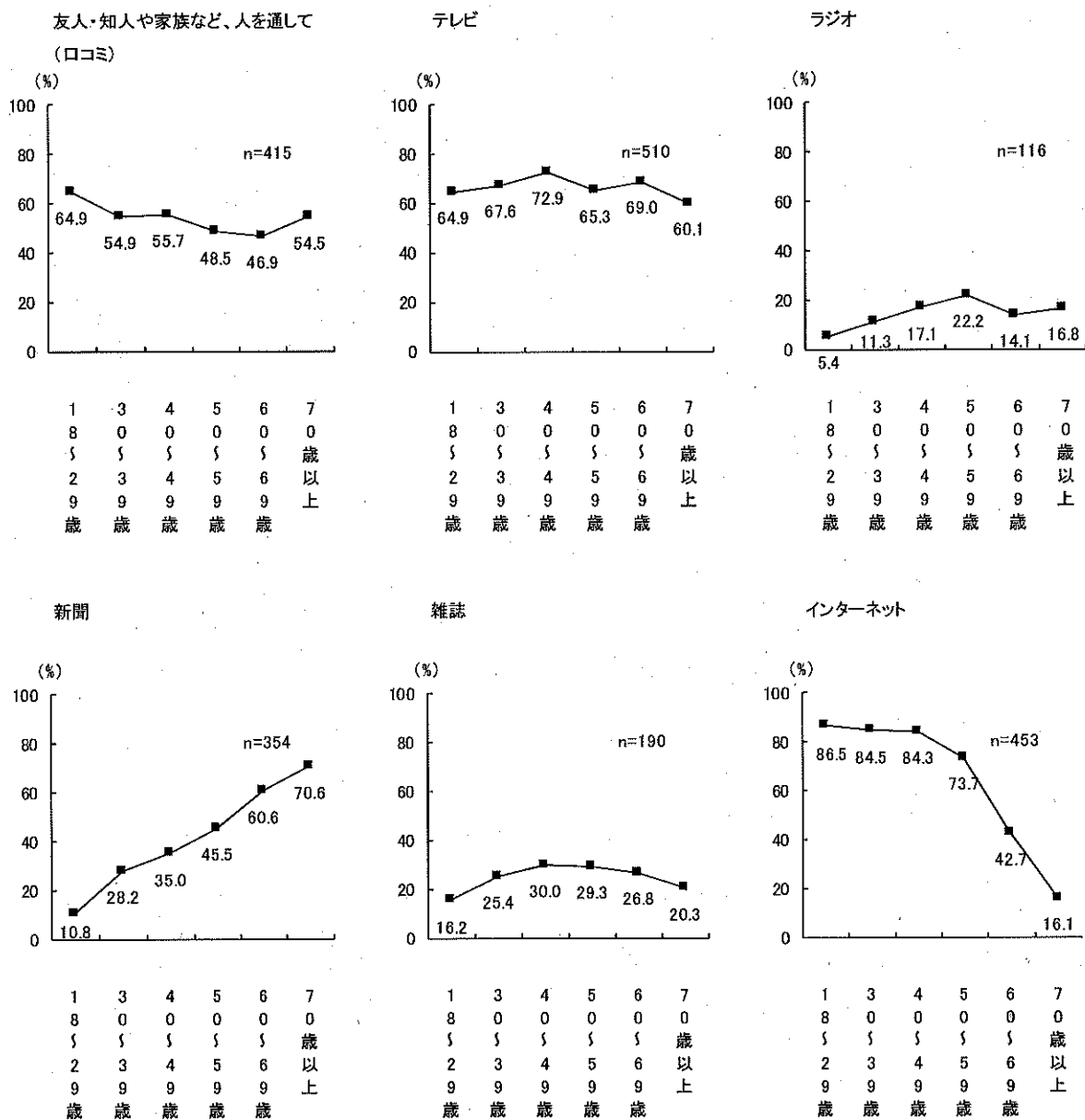
過去の調査と比較すると、平成27年度調査で第2位だった「友人・知人や家族など、人を通して(口コミ)」を平成30年度調査では「インターネット」が抜き、第2位となった。

<年代別>

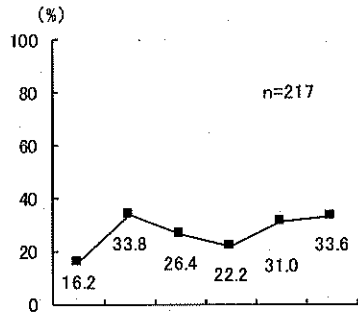
「インターネット」は、18～29歳から50～59歳まで7割超で第1位となっており、年代が上がるにつれて割合が下がる傾向にある。「テレビ」は60～69歳で、「新聞」は70歳以上でそれぞれ第1位となっている。「テレビ」はすべての年代で6割を超え、「友人・知人や家族など、人を通して（口コミ）」は4割を超えているが、特に18～29歳では6割超と比較的高くなっている。

また、「新聞」は概ね年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向にある。

【図1-9-ii 年代別 鑑賞情報の入手媒体】

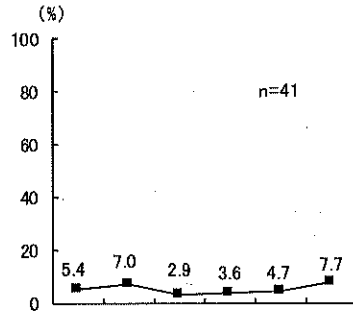


県民だより、市町だよりや回覧板などの
行政の広報



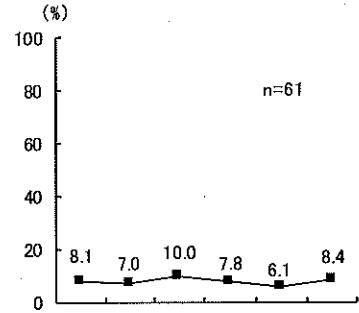
1	3	4	5	6	7
8	0	0	0	0	0
9	9	9	9	9	9
歳	歳	歳	歳	歳	歳
2	3	4	5	6	7
9	9	9	9	9	9
歳	歳	歳	歳	歳	歳

同人誌や会報など



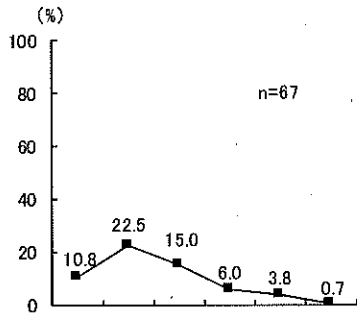
1	3	4	5	6	7
8	0	0	0	0	0
9	9	9	9	9	9
歳	歳	歳	歳	歳	歳
2	3	4	5	6	7
9	9	9	9	9	9
歳	歳	歳	歳	歳	歳

プレイガイドやチケット売り場



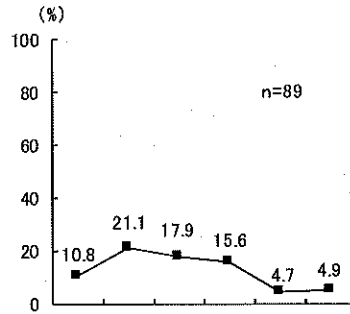
1	3	4	5	6	7
8	0	0	0	0	0
9	9	9	9	9	9
歳	歳	歳	歳	歳	歳
2	3	4	5	6	7
9	9	9	9	9	9
歳	歳	歳	歳	歳	歳

フリーペーパー



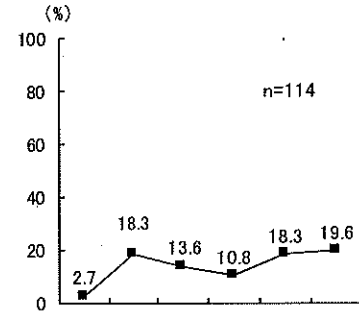
1	3	4	5	6	7
8	0	0	0	0	0
9	9	9	9	9	9
歳	歳	歳	歳	歳	歳
2	3	4	5	6	7
9	9	9	9	9	9
歳	歳	歳	歳	歳	歳

コンビニ・スーパーの掲示



1	3	4	5	6	7
8	0	0	0	0	0
9	9	9	9	9	9
歳	歳	歳	歳	歳	歳
2	3	4	5	6	7
9	9	9	9	9	9
歳	歳	歳	歳	歳	歳

公民館、文化施設、図書館の掲示



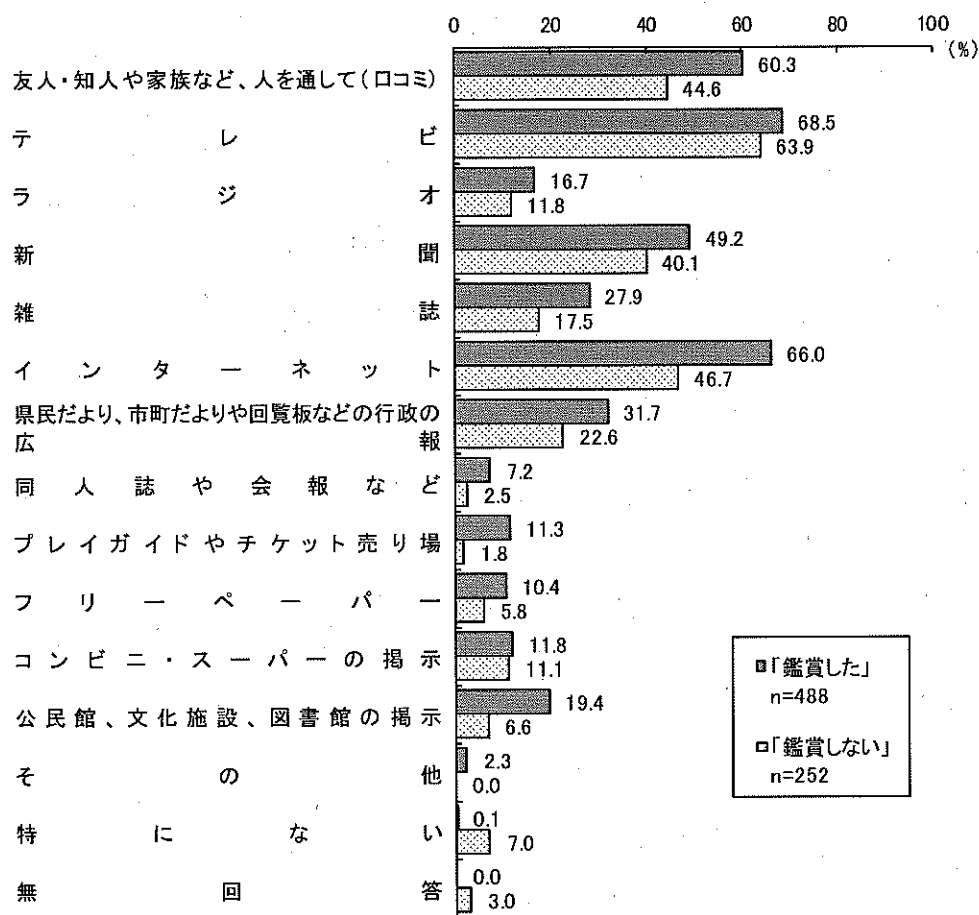
1	3	4	5	6	7
8	0	0	0	0	0
9	9	9	9	9	9
歳	歳	歳	歳	歳	歳
2	3	4	5	6	7
9	9	9	9	9	9
歳	歳	歳	歳	歳	歳

＜「直接鑑賞機会の有無」別＞

昨年1年間に文化・芸術を直接鑑賞する機会があった人は、直接鑑賞しない人に比べて、すべての項目において情報媒体の利用率が高い。直接鑑賞する機会があった人の情報媒体の第1位は「テレビ」が68.5%、次いで「インターネット」の66.0%、「友人・知人や家族など、人を通して（ロコミ）」の60.3%の順となっている。

直接鑑賞機会の「ある」と「ない」人で10ポイント以上差があったのは、「インターネット」（19.3ポイント）、「友人・知人や家族など、人を通して（ロコミ）」（15.7ポイント）、「公民館、文化施設、図書館の掲示」（12.8ポイント）、「雑誌」（10.4ポイント）が挙げられる。

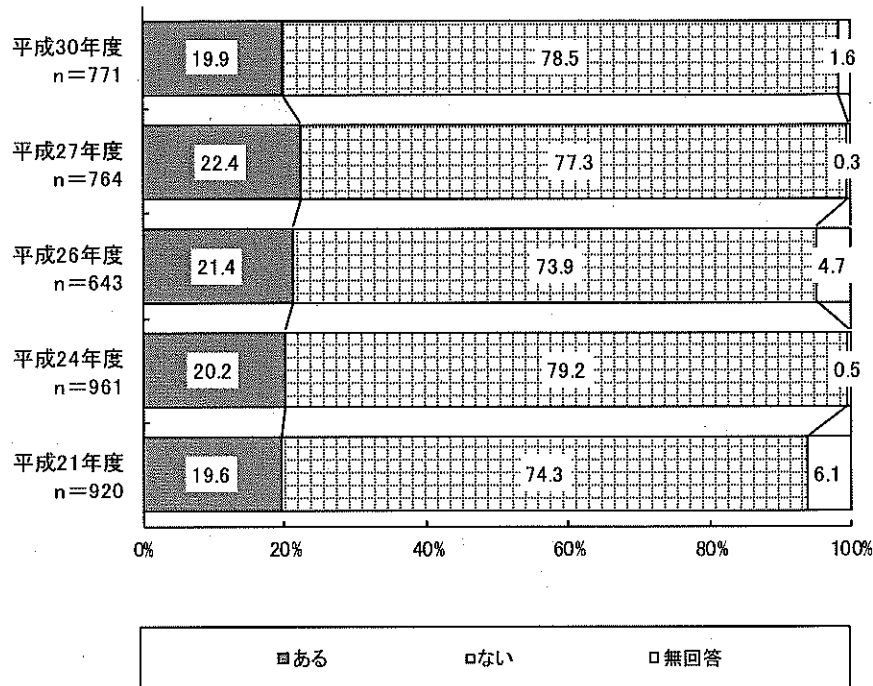
【図1-9-iii 「直接鑑賞機会の有無」別 鑑賞情報の入手媒体】



2 文化・芸術の活動について

2-1 文化・芸術の活動機会の有無

問10 あなたは、昨年1年間に、文化・芸術に関することで、個人またはグループで、継続して活動したことはありましたか。



<全体>

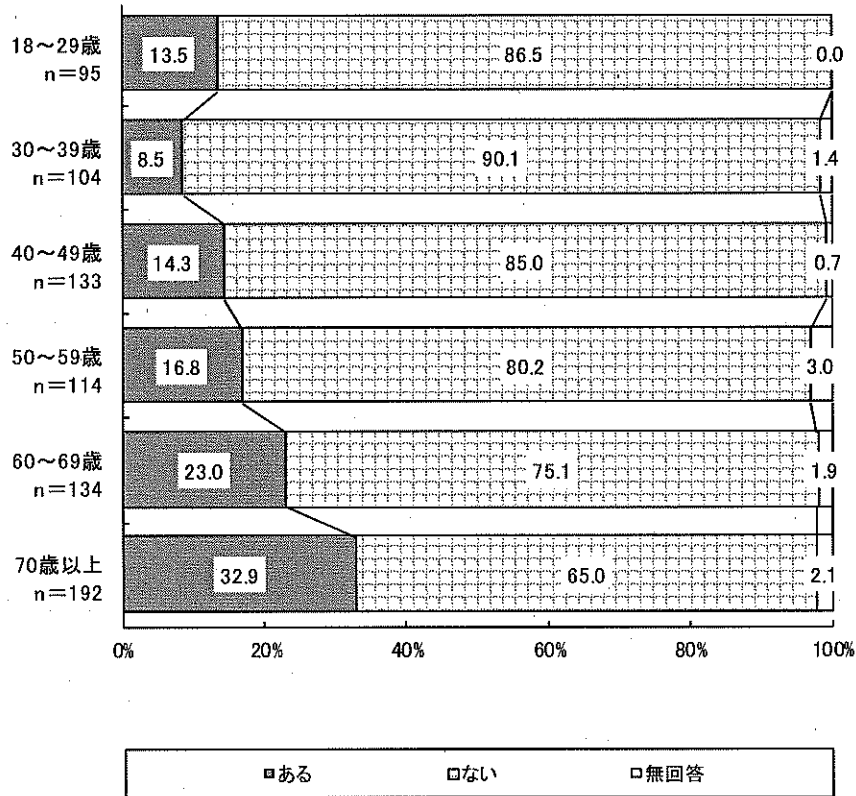
昨年1年間に文化・芸術に関する活動をしたことが「ある」人は19.9%で、ほぼ5人に1人の割合となっている。一方、したことが「ない」人は78.5%となっている。

過去の調査と比較すると、文化・芸術に関する活動をしたことが「ある」人は平成21年度調査以降、微増となっていたが、平成30年度調査では平成27年度調査と比較して2.5ポイント減少している。

<年代別>

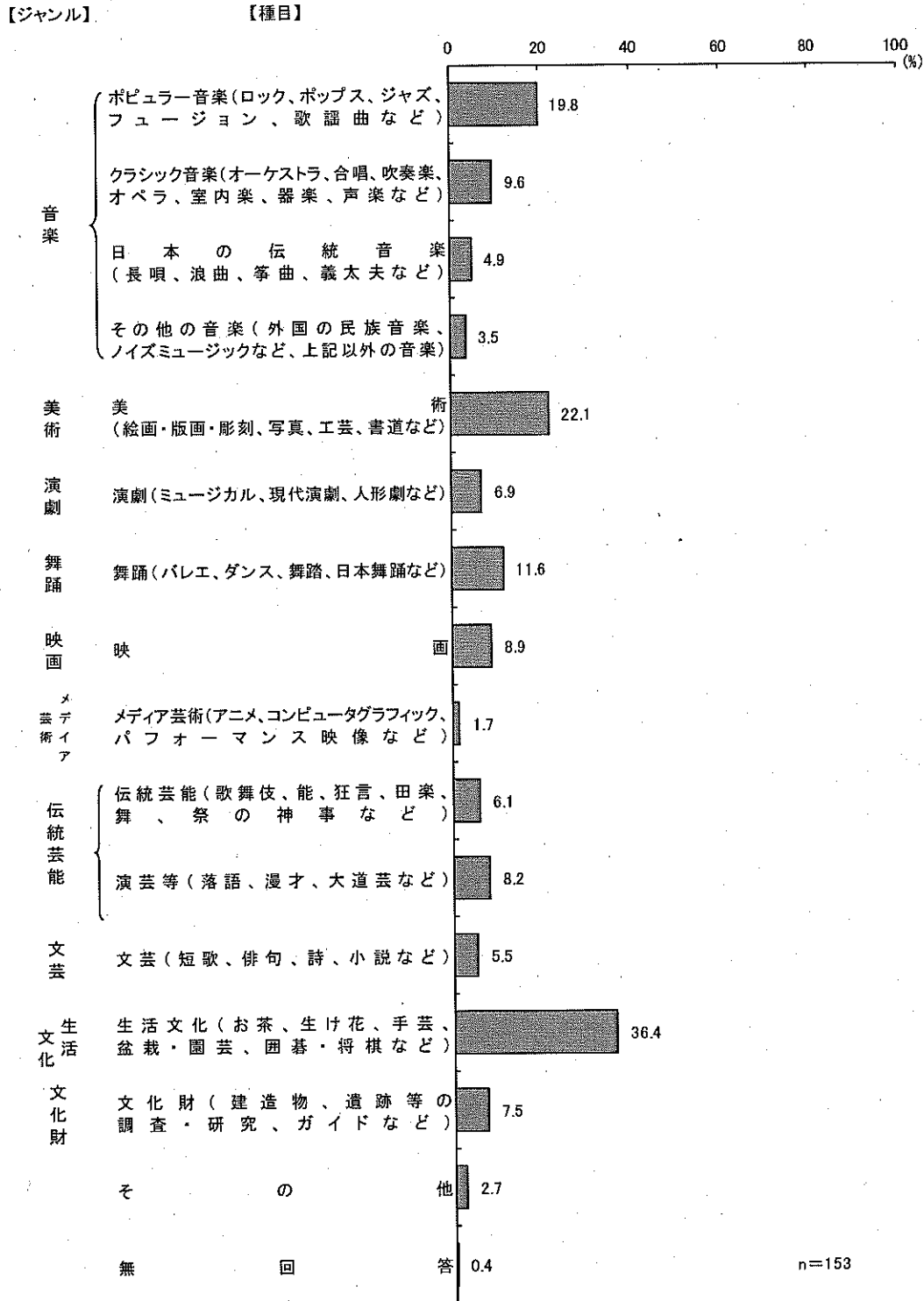
文化・芸術に関する活動をしたことが「ある」人を年代別でみると、第1位は70歳以上で32.9%と3割を超え、次いで60～69歳が23.0%、50～59歳が16.8%が続いている。また、30～39歳は最も低く、8.5%と1割を切っており、30～39歳以降は年代が上がるにつれて文化・芸術に関する活動をしたことが「ある」人の割合が増えている。

【図2-1-i 年代別 文化・芸術の活動機会の有無】



2-2 文化・芸術の活動内容

問11 問10で「1. ある」と回答された方にお聞きます。継続して活動したことは次のどれですか。次の中から、当てはまるものすべてに○をつけてください。



【図2-2-i 文化・芸術の活動内容】

(%)

【ジャンル】	【種目】	平成21年度	平成24年度	平成26年度	平成27年度	平成30年度
音楽	ポピュラー	8.3	14.9	15.2	18.3	19.8
	クラシック	12.8	23.1	16.2	16.3	9.6
	伝統音楽	3.3	4.4	3.6	2.1	4.9
	その他音楽	2.8	1.8	1.9	0.8	3.5
美術	美術	25.0	26.1	27.6	21.4	22.1
演劇	演劇	5.6	4.1	3.2	5.6	6.9
舞踊	舞踊	19.4	13.9	15.2	13.5	11.6
映画	映画	4.4	11.4	16.4	10.4	8.9
メディア芸術	メディア芸術	2.2	4.0	4.0	3.0	1.7
伝統芸能	伝統芸能	3.3	3.5	7.3	6.7	6.1
	演芸等	1.7	2.0	2.4	4.4	8.2
文芸	文芸	6.1	4.7	8.8	8.3	5.5
生活文化	生活文化	31.7	29.7	36.1	28.4	36.4
文化財	文化財	6.7	8.1	16.5	10.8	7.5
その他		10.6	6.3	7.1	4.5	2.7
無回答		2.2	2.6	1.3	0.0	0.4

<全体>

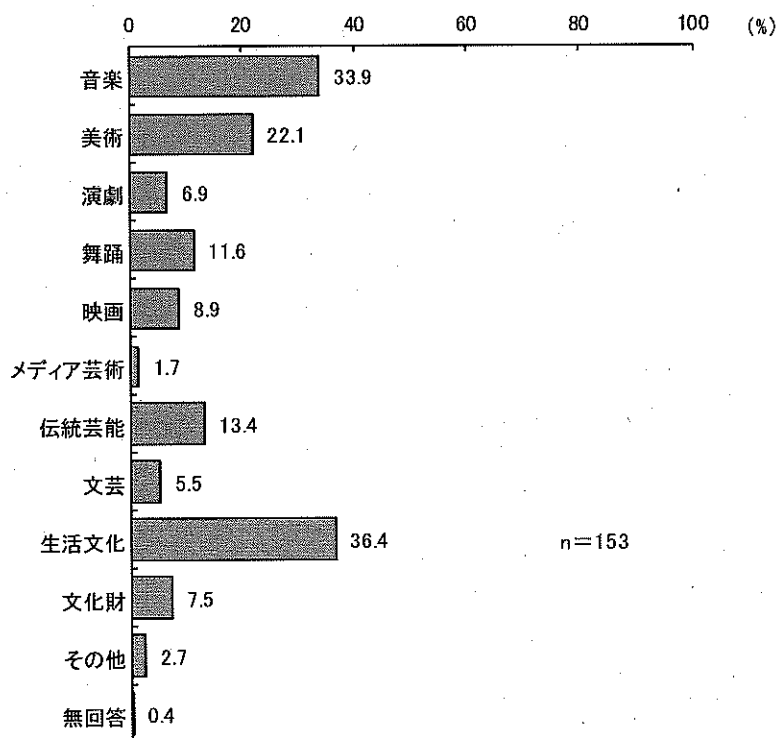
昨年1年間に文化・芸術に関することで、個人またはグループで、継続して学習や活動をした機会が「ある」と回答した人の活動内容は、第1位が「生活文化」で36.4%、次いで「美術」が22.1%、「ポピュラー音楽」が19.8%となっている。

過去の調査と比較すると、「生活文化」は平成27年度調査では前年度よりも減少していたが、平成30年度調査では逆に8.0ポイント増加している。一方、「ポピュラー音楽」は平成27年度調査に引き続いて増加している。

<ジャンル別>

ジャンル別にみると、第1位は「生活文化」が36.4%と最も高く、次いで「音楽」が33.9%、「美術」が22.1%の順となっている。

【図2-2-ii ジャンル別 文化・芸術の活動内容】



<性・年代別>

性・年代別については回答数が少ないため、表のみを貼付する。

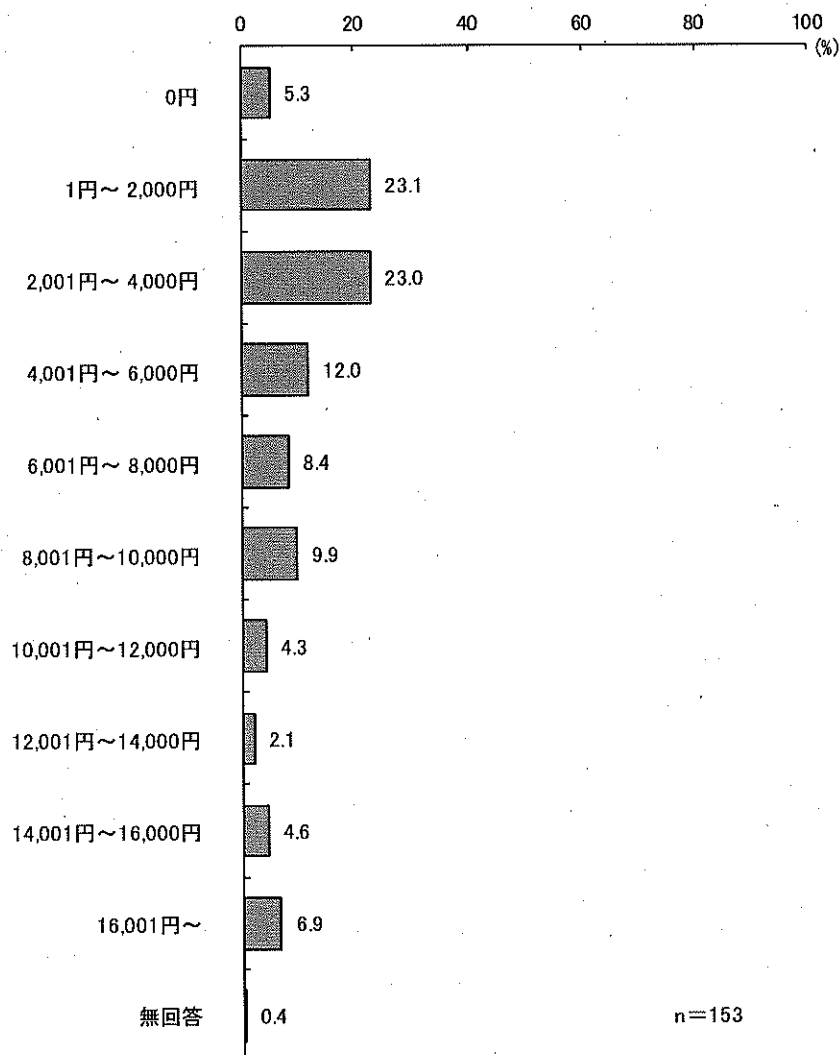
【図2-2-iii 性・年代別 文化・芸術の活動内容の上位種目】

(%)

性	年代	件数	1位	2位	3位	4位	5位
男性	18～29歳	3	ポピュラー音楽 100.0				
	30～39歳	7	クラシック音楽 60.0	ポピュラー音楽 40.0	その他の音楽/文芸/美術 20.0		
	40～49歳	6	美術/生活文化 33.3		日本の伝統音楽/文化財/舞踊/メディア芸術 16.7		
	50～59歳	5	ポピュラー音楽 42.9	美術 28.6	日本の伝統音楽/その他の音楽/文芸/生活文化/文化財 14.3		
	60～69歳	14	美術 26.1	ポピュラー音楽/映画/生活文化/文化財 17.4			
	70歳以上	29	生活文化 50.0	美術 36.4	ポピュラー音楽/演芸等 31.8		映画 18.2
女性	18～29歳	10	クラシック音楽/美術/舞踊/生活文化 25.0				
	30～39歳	1	生活文化 100.0				
	40～49歳	13	生活文化 57.1	舞踊 21.4	クラシック音楽/映画 14.3		ポピュラー音楽他3項目 7.1
	50～59歳	14	生活文化 42.9	ポピュラー音楽/美術 14.3		文芸 9.5	クラシック音楽他7項目 4.8
	60～69歳	16	生活文化 46.2	美術 23.1	演劇 15.4	映画 11.5	ポピュラー音楽 7.7
	70歳以上	34	生活文化 32.0	ポピュラー音楽/舞踊 20.0		美術/演劇/伝統芸能 16.0	

2-3 文化・芸術活動への月間支出額

問12 問10で「1. ある」と回答された方にお聞きします。あなたは、昨年1年間で文化・芸術に関すること
で、個人またはグループで、継続して活動するために、1か月平均いくら位お金を支出していますか。
次の中から、最も近い金額に○をつけてください。



【図2-3-i 文化・芸術活動への月間支出額】

(%)

【項目】	平成21年度	平成24年度	平成26年度	平成27年度	平成30年度
0円	4.4	0.9	0.7	4.0	5.3
1円～2,000円	18.3	17.4	20.4	22.8	23.1
2,001円～4,000円	23.3	24.4	21.9	24.4	23.0
4,001円～6,000円	12.8	15.8	13.9	14.6	12.0
6,001円～8,000円	7.8	10.2	10.2	6.3	8.4
8,001円～10,000円	10.6	8.0	11.7	5.5	9.9
10,001円～12,000円	8.9	11.6	5.8	6.7	4.3
12,001円～14,000円	2.2	3.6	2.2	4.1	2.1
14,001円～16,000円	3.3	2.3	5.8	3.6	4.6
16,001円～	6.7	4.3	7.3	7.7	6.9
無回答	1.7	1.7	0.0	0.4	0.4

<全体>

昨年1年間に文化・芸術に関する事で、個人またはグループで、継続して活動した機会が「ある」と回答した人の月間支出額は、「1円～2,000円」が23.1%で最も高く、次いで「2,001円～4,000円」が23.0%、「4,001円～6,000円」が12.0%の順となっている。

また、「16,001円以上」と回答した人は6.9%となっている。

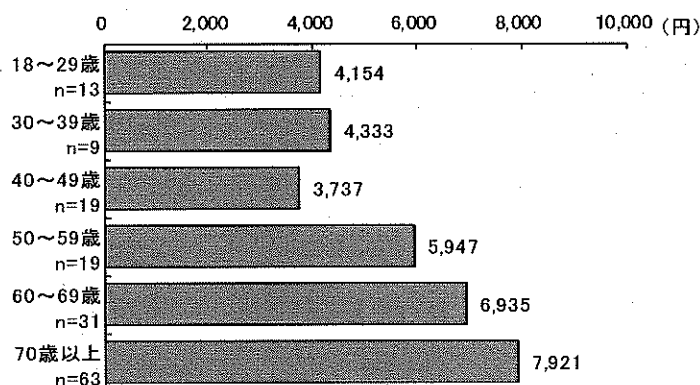
過去の調査と比較すると、「0円」が過去最大の5.3%となっている。また、「1円～2,000円」は平成24年度調査以降増加傾向で推移しており、平成30年度調査で初めて第1位となっている。

<年代別>

1人当たりの月間支出額は下のグラフの通りとなった（算出方法は下記参照）。

年代別で見ると、70歳以上が7,921円で最も高く、次いで、60～69歳が6,935円、50～59歳が5,947円と続いている。また、40～49歳が3,737円で最も低くなっている。

【図2-3-ii 年代別 文化・芸術活動への月間支出額】



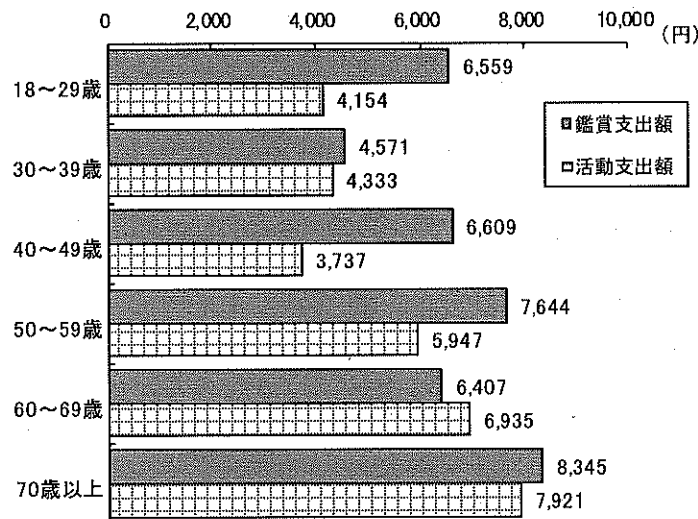
算出方法

- ①本設問の選択肢は、「1円～2,000円」といったように2,000円の幅があるため、その中央値を単価とする。(例: 「1円～2,000円」であれば1,000円、「2,001円～4,000円」であれば3,000円)
- ②年代ごとに各単価の回答者数を出し、単価に乗ずる。これを合計して、各年代の合計支出額を算出する。
- ③②の合計支出額を、「無回答」を除く各年代の回答者数で除したものを、1人当たりの平均支出額とする。

<鑑賞への月間支出額との比較>

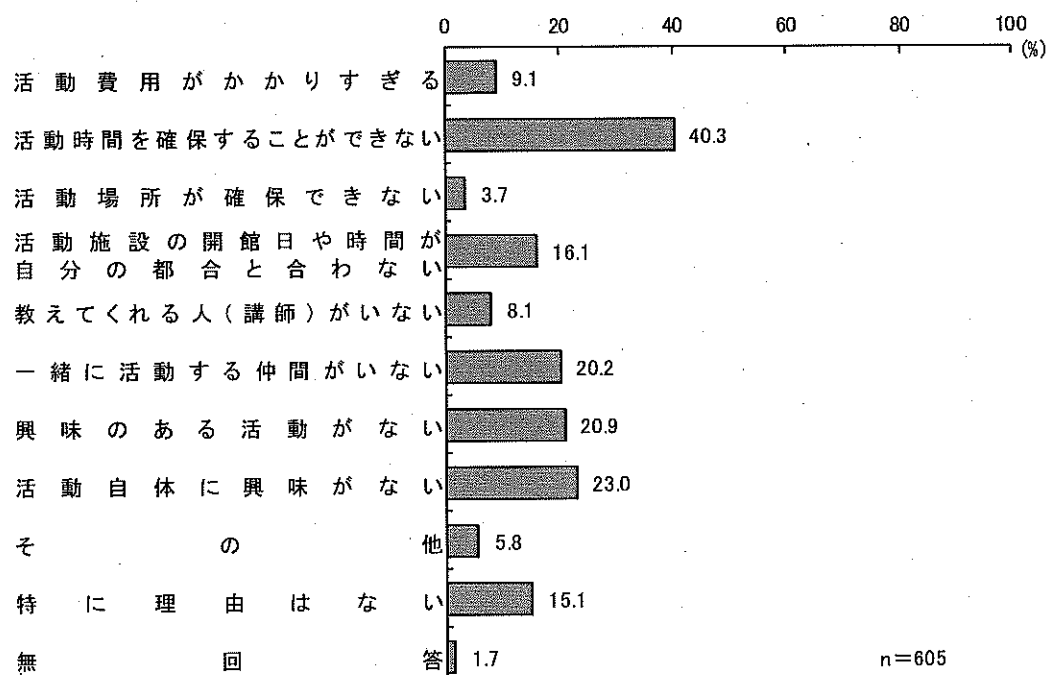
1-6の文化・芸術鑑賞への月間支出額と文化・芸術活動への月間支出額を年代別で比較すると、60～69歳では唯一活動支出額が鑑賞支出額を上回っている。また、差額が2,000円を上回っている年代として、40～49歳が2,872円、18～29歳が2,405円、それぞれ鑑賞支出額が活動支出額を上回っている。

【図2-3-iii 年代別 鑑賞への支出額と活動への支出額】



2-4 文化・芸術活動をしらない理由

問13 問10で「2. ない」と回答された方にお聞きます。あなたが活動していないのは、どのような理由からですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。



【図2-4-1 文化・芸術活動をしらない理由】

【項目】	(%)			
	平成24年度	平成26年度	平成27年度	平成30年度
活動費用がかかりすぎる	14.3	14.3	12.3	9.1
活動時間を確保することができない	54.8	45.9	39.2	40.3
活動場所が確保できない	2.8	5.1	5.5	3.7
活動施設の開館日や時間が自分の都合と合わない	3.5	1.9	14.8	16.1
教えてくれる人(講師)がいない	5.9	5.0	8.1	8.1
一緒に活動する仲間がいない	20.0	16.1	19.7	20.2
興味のある活動がない	20.1	19.5	18.7	20.9
活動自体に興味がない	11.7	14.5	19.9	23.0
その他	4.2	5.7	6.6	5.8
特に理由はな	12.9	14.6	19.7	15.1
無回答	0.7	1.7	0.5	1.7

<全体>

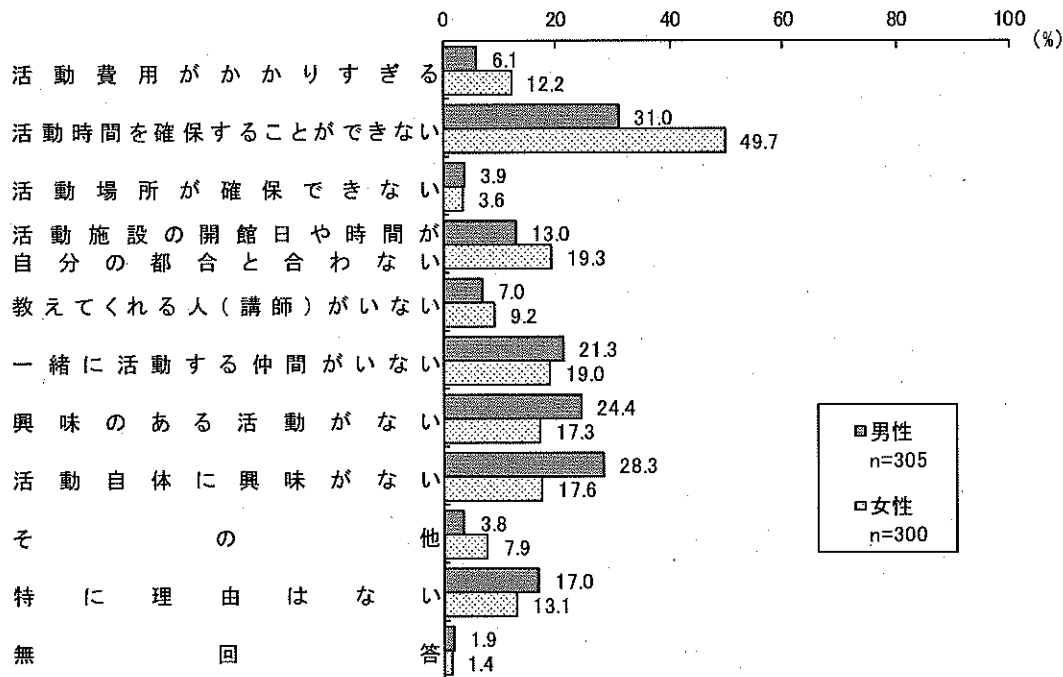
昨年1年間に文化・芸術に関する活動をしなかった理由の第1位は、「活動時間を確保することができない」が40.3%と最も高く、次いで「活動自体に興味がない」が23.0%、「興味のある活動がない」が20.9%、「一緒に活動する仲間がいない」が20.2%の順となっている。

<性別>

男女ともに「活動時間を確保することができない」が最も高く、次いで男性では「活動自体に興味がない」「興味のある活動がない」「一緒に活動する仲間がいない」と続いている。女性では「活動施設の開館日や時間が自分の都合と合わない」「一緒に活動する仲間がいない」「活動自体に興味がない」と続いている。

また、女性が男性を10ポイント以上上回っているものとして「活動時間を確保することができない」(18.7ポイント)が挙げられる。男性が女性を10ポイント以上上回っているものとして「活動自体に興味がない」(10.7ポイント)が挙げられる。

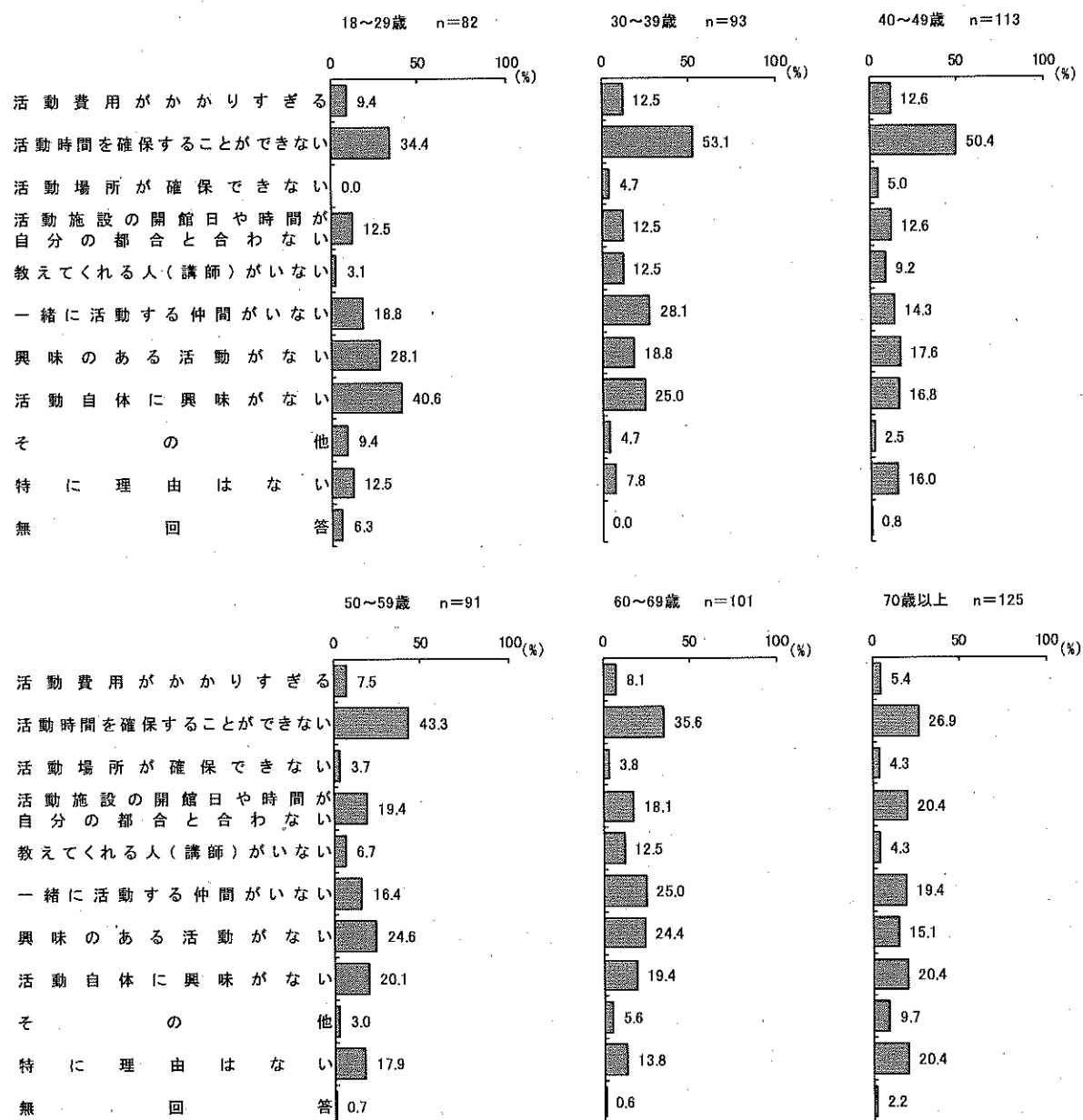
【図2-4-ii 性別 文化・芸術活動をしらない理由】



<年代別>

年代別でみると、18～29歳を除くすべての年代で「活動時間を確保することができない」が第1位となっており、特に30～39歳、40～49歳では5割超となっている。18～29歳では「活動自体に興味がない」が第1位となっている。

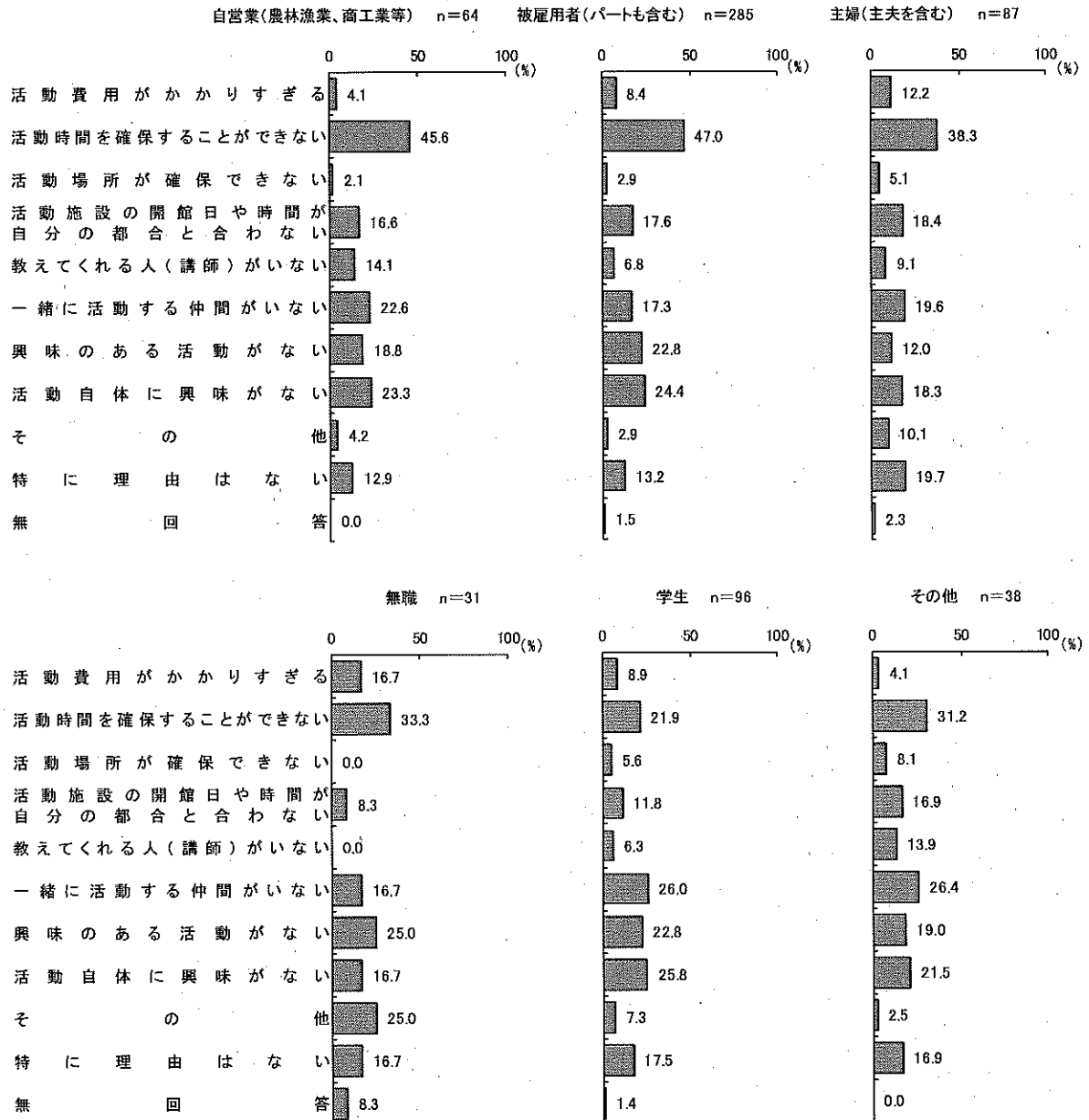
【図2-4-iii 年代別 文化・芸術活動をしらない理由】



<職業別>

職業別でみると、学生を除くすべての職業で「活動時間を確保することができない」が第1位となっている。学生では「一緒に活動する仲間がいない」が第1位となっている。

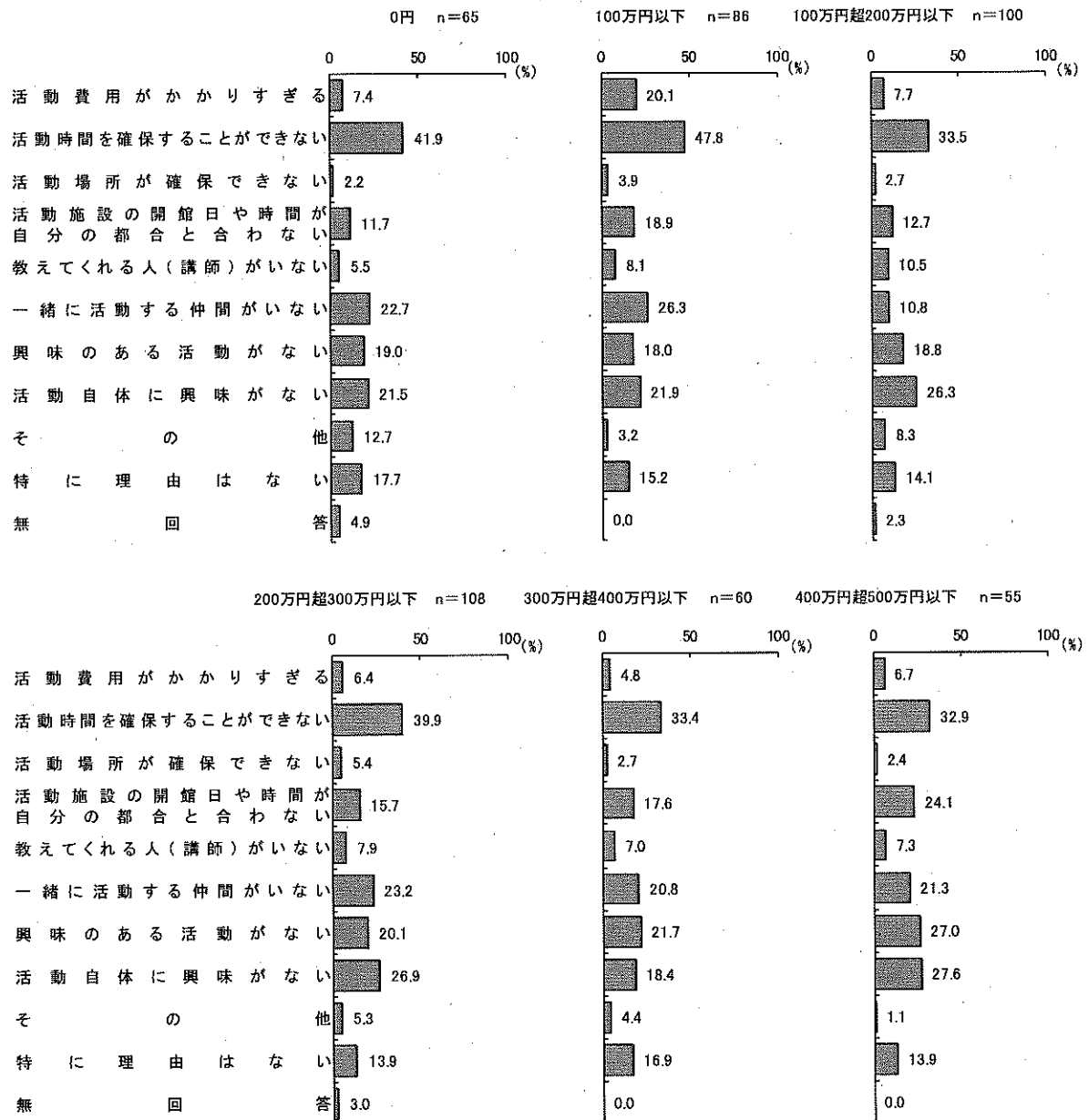
【図2-4-iv 職業別 文化・芸術活動をしない理由】



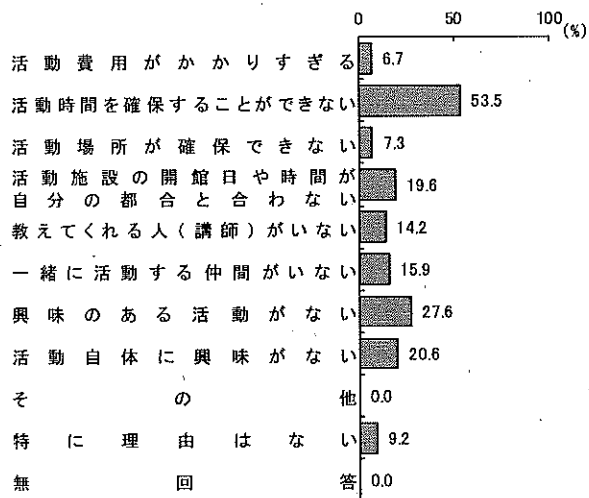
<収入別>

収入別でみると、すべての収入で「活動時間を確保することができない」が第1位となっており、特に500万円超600万円以下では5割超となっている。

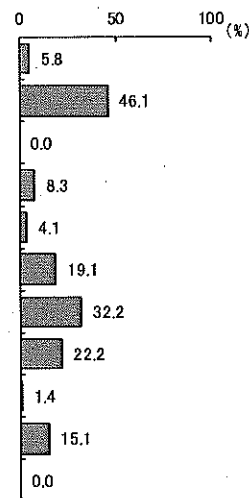
【図2-4-v 収入別 文化・芸術活動をしない理由】



500万円超600万円以下 n=39



600万円超 n=49

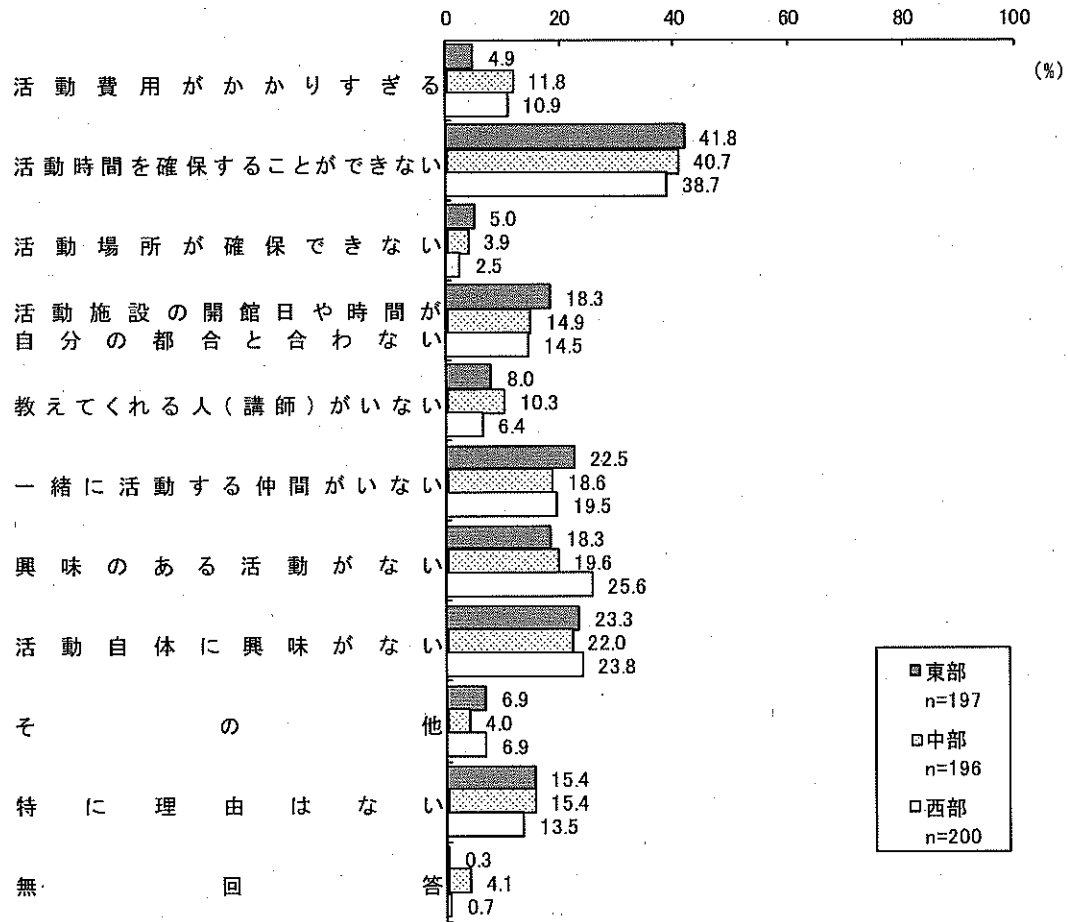


<地区別>

地区別でみると、「活動時間を確保することができない」は、東部地区が41.8%、中部地区が40.7%、西部地区が38.7%とそれぞれ第1位となっている。

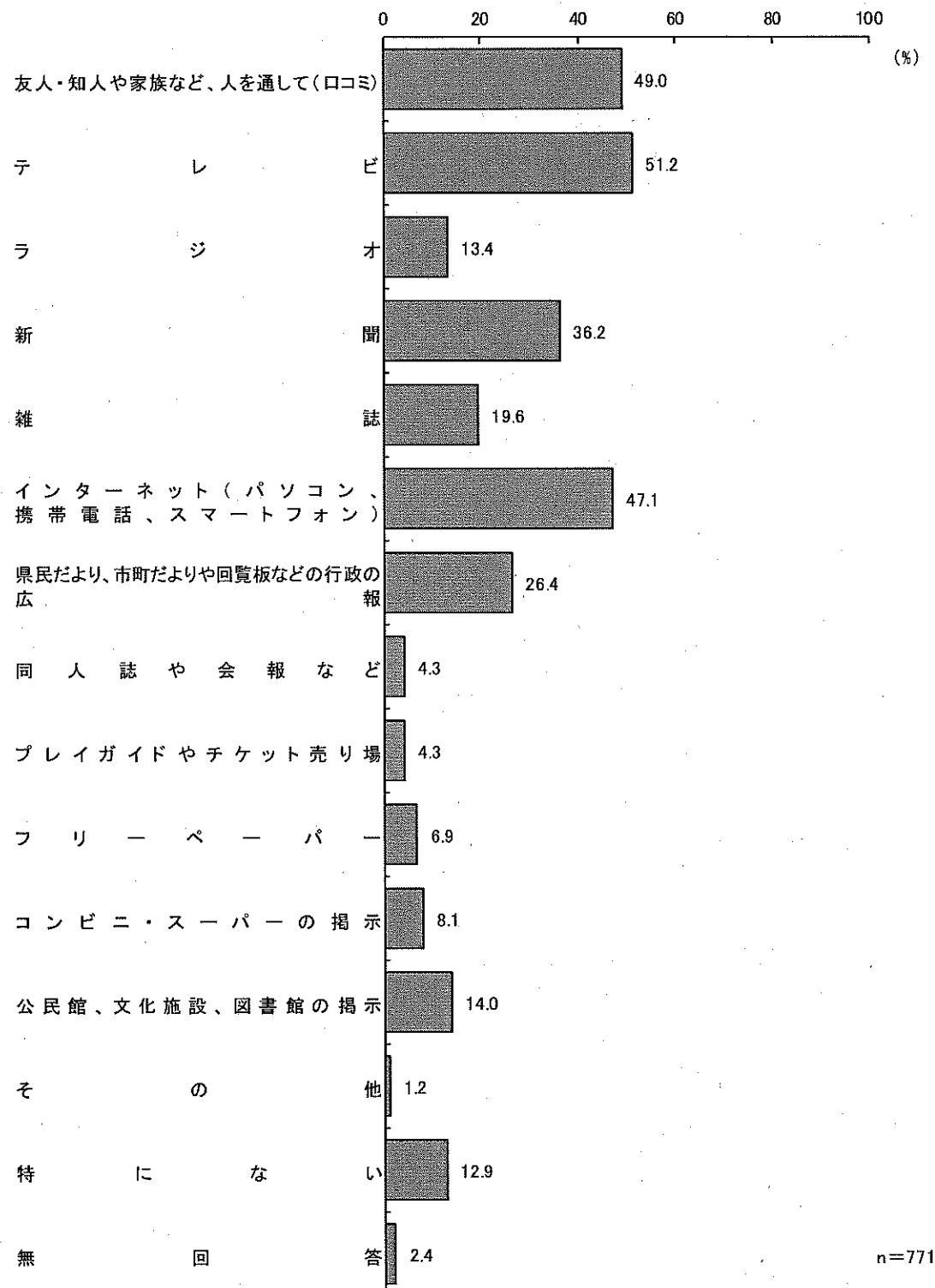
「活動費用がかかりすぎる」では東部地区が他の2地区に比べて6ポイント以上低くなっている。

【図2-4-vi 地区別 文化・芸術活動をしらない理由】



2-5 文化・芸術活動の情報入手媒体

問14 あなたは、文化・芸術に関する活動についての情報を入手するために、現在どのようなもの(媒体・手段)を利用していますか。次の中から、当てはまるものすべてに○をつけてください。



【図2-5-i 文化・芸術活動の情報入手媒体】

(%)

【項目】	平成21年度	平成24年度	平成26年度	平成27年度	平成30年度
友人・知人や家族など、人を通して (口コミ)	46.1	46.7	50.1	48.5	49.0
テレビ(※)	46.1	45.6	51.3	49.2	51.2
ラジオ(※)				12.4	13.4
新聞(※)	52.3	47.3	52.4	39.5	36.2
雑誌(※)				21.2	19.6
インターネット	24.1	30.7	29.5	43.2	47.1
行政の広報	35.5	33.1	36.9	27.6	26.4
同人誌や会報など	2.2	3.0	2.6	5.3	4.3
プレイガイドやチケット売り場	2.4	2.2	3.0	3.0	4.3
フリーペーパー	-	-	-	7.0	6.9
コンビニ・スーパーの掲示	4.7	4.6	6.0	7.9	8.1
公民館、文化施設、図書館の掲示	14.0	13.3	16.1	17.6	14.0
その他	0.5	0.7	0.8	1.4	1.2
特になし	12.8	14.3	9.1	14.7	12.9
無回答	3.3	2.2	5.3	2.2	2.4

※平成27年度から「テレビ」「ラジオ」は過去調査の「テレビ・ラジオ」を2項目に分けて集計。

※平成27年度から「新聞」「雑誌」は過去調査の「新聞・雑誌」を2項目に分けて集計。

<全体>

文化・芸術に関する活動について、利用している媒体手段は「テレビ」が51.2%で第1位となっている。次いで「友人・知人や家族など、人を通して（口コミ）」が49.0%、「インターネット」が47.1%となっている。

過去の調査と比較すると、「インターネット」が平成27年度調査の43.2%から3.9ポイント増と、増加傾向がみられる。

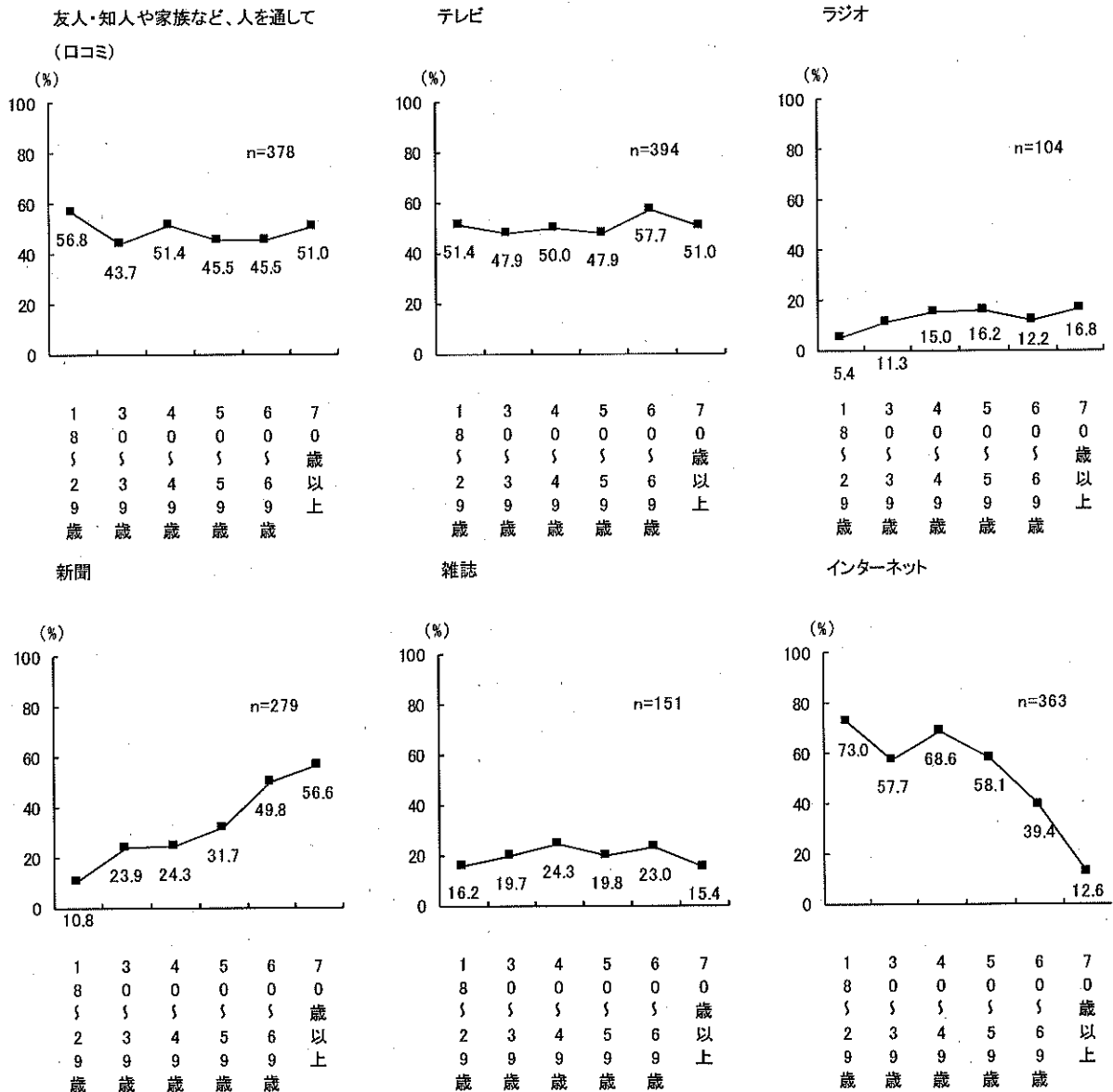
<年代別>

「インターネット」では、18～29歳から50～59歳まででいずれも半数を超え第1位となっている。「テレビ」は60～69歳が57.7%、「新聞」は70歳以上が56.6%でそれぞれ第1位となっている。

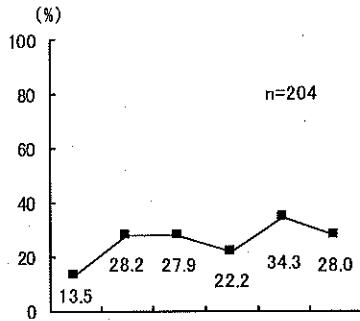
また、「新聞」は年代が上がるにつれて割合が高くなっており、一方、「インターネット」は概ね年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

「友人・知人や家族など、人を通して（ロコミ）」と「テレビ」はいずれの年代でも4割超を占めており、各年代で大きな違いは見られない。

【図2-5-ii 年代別 文化・芸術活動の情報入手媒体】

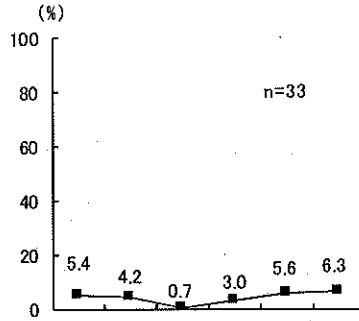


県民だより、市町だよりや回覧板などの
行政の広報



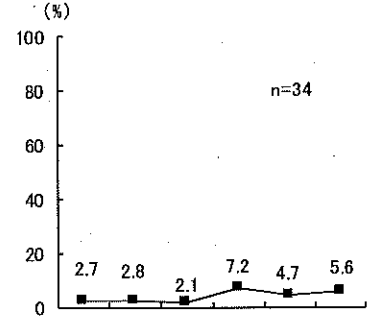
1	3	4	5	6	7
8	0	0	0	0	0
5	5	5	5	5	5
2	3	4	5	6	歳以上
9	9	9	9	9	歳
歳	歳	歳	歳	歳	歳

同人誌や会報など



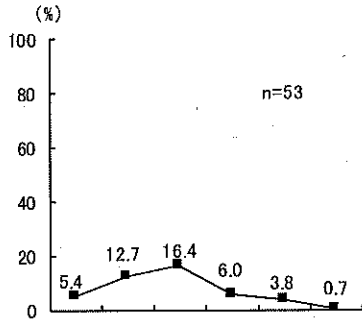
1	3	4	5	6	7
8	0	0	0	0	0
5	5	5	5	5	5
2	3	4	5	6	歳以上
9	9	9	9	9	歳
歳	歳	歳	歳	歳	歳

プレイガイドやチケット売り場



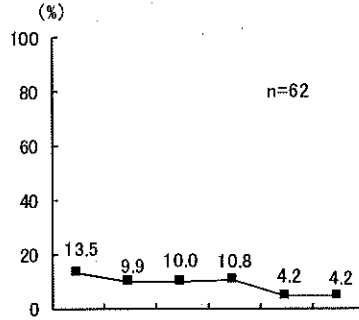
1	3	4	5	6	7
8	0	0	0	0	0
5	5	5	5	5	5
2	3	4	5	6	歳以上
9	9	9	9	9	歳
歳	歳	歳	歳	歳	歳

フリーペーパー



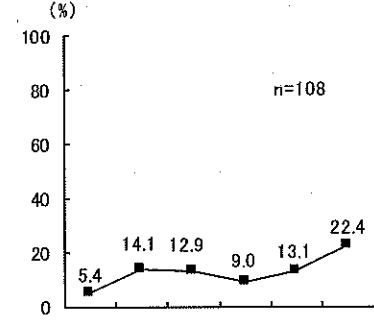
1	3	4	5	6	7
8	0	0	0	0	0
5	5	5	5	5	5
2	3	4	5	6	歳以上
9	9	9	9	9	歳
歳	歳	歳	歳	歳	歳

コンビニ・スーパーの掲示



1	3	4	5	6	7
8	0	0	0	0	0
5	5	5	5	5	5
2	3	4	5	6	歳以上
9	9	9	9	9	歳
歳	歳	歳	歳	歳	歳

公民館、文化施設、図書館の掲示



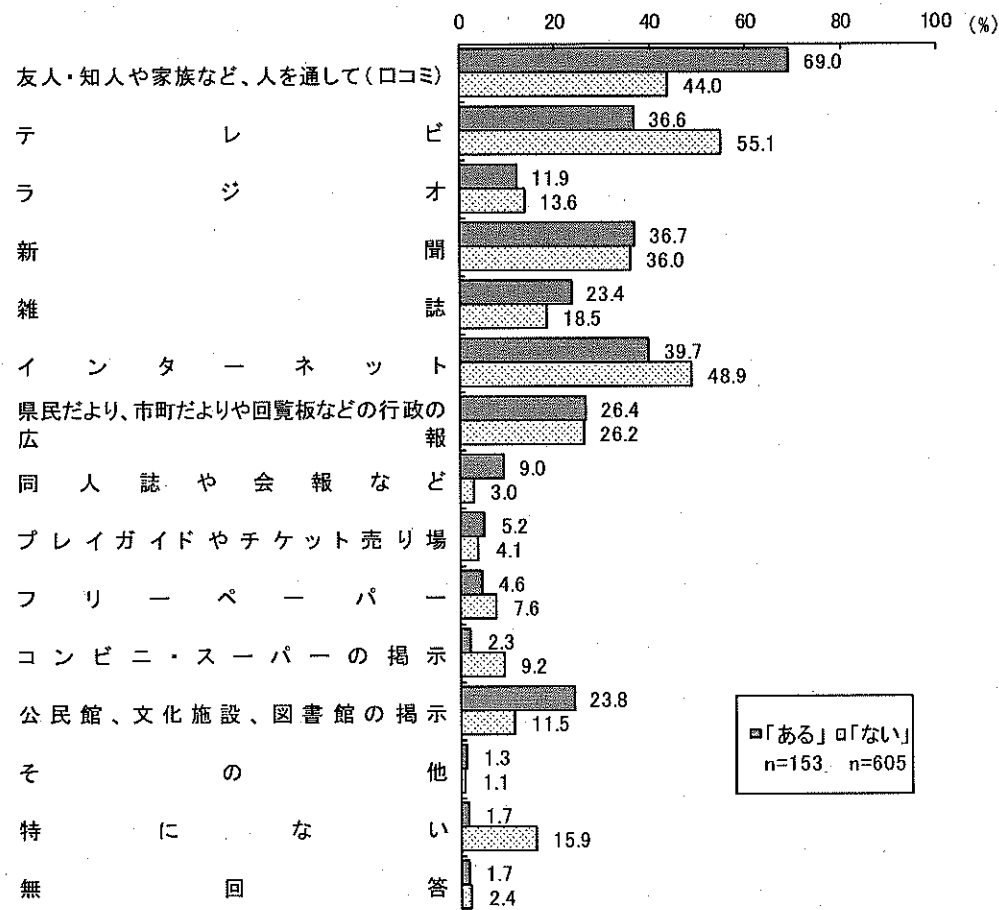
1	3	4	5	6	7
8	0	0	0	0	0
5	5	5	5	5	5
2	3	4	5	6	歳以上
9	9	9	9	9	歳
歳	歳	歳	歳	歳	歳

<「活動機会の有無」別>

昨年1年間に文化・芸術に関する活動機会が「ある」人が、活動機会が「ない」人に比べて10ポイント以上高かった情報媒体としては、「友人・知人や家族など、人を通して(口コミ)」が25.0ポイント、「公民館、文化施設、図書館の掲示」が12.3ポイントで挙げられる。

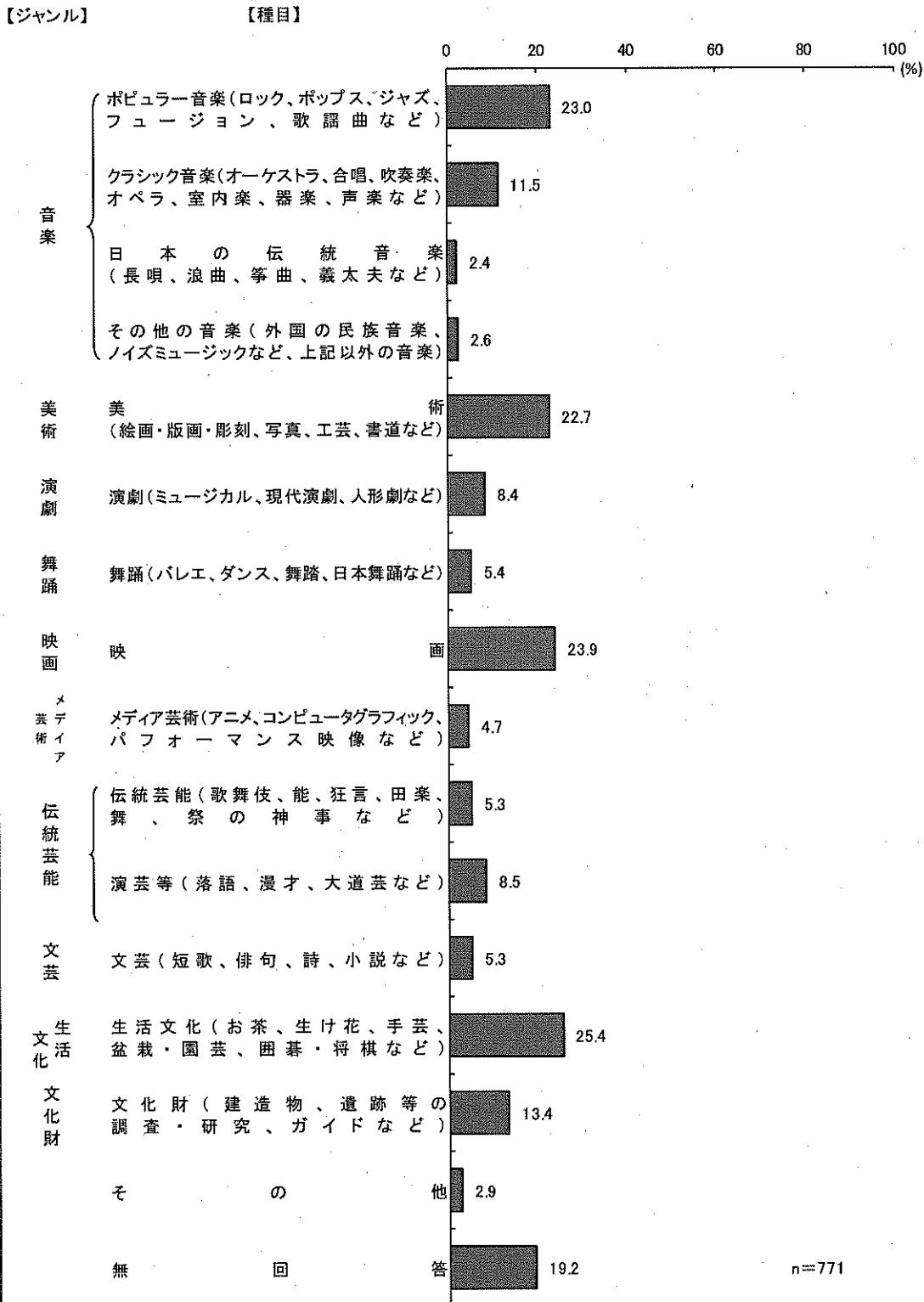
また、活動する機会があった人の第1位は「友人・知人や家族など、人を通して(口コミ)」が69.0%で、次いで「インターネット」の39.7%、「新聞」の36.7%となっている。

【図2-5-iii 「活動機会の有無」別 文化・芸術活動の情報入手媒体】



2-6 今後したい文化・芸術活動

問15 あなたは、次にあげる文化・芸術に関する活動の中で、今後、継続して活動してみたいものがありますか。活動してみたいものすべてに○をつけてください。



【図2-6-i 今後したい文化・芸術活動】

(%)

【ジャンル】	【種目】	平成21年度	平成24年度	平成26年度	平成27年度	平成30年度
音楽	ポピュラー	15.2	13.3	15.9	24.7	23.0
	クラシック	13.4	14.3	14.4	14.8	11.5
	伝統音楽	3.5	3.2	2.8	1.8	2.4
	その他音楽	1.8	1.1	1.8	1.8	2.6
美術	美術	27.0	27.8	26.5	25.6	22.7
演劇	演劇	5.9	5.7	8.6	8.8	8.4
舞踊	舞踊	9.0	8.0	4.6	6.0	5.4
映画	映画	15.8	15.3	19.2	23.4	23.9
メディア芸術	メディア芸術	2.3	2.6	2.7	4.5	4.7
伝統芸能	伝統芸能	4.1	4.1	6.3	5.5	5.3
	演芸等	7.1	5.9	8.1	7.0	8.5
文芸	文芸	4.1	4.7	6.3	4.8	5.3
生活文化	生活文化	24.8	23.7	25.4	25.7	25.4
文化財	文化財	10.5	13.2	14.4	13.7	13.4
その他		1.8	1.2	1.0	8.0	2.9
無回答		5.9	4.6	7.2	15.1	19.2

＜全体＞

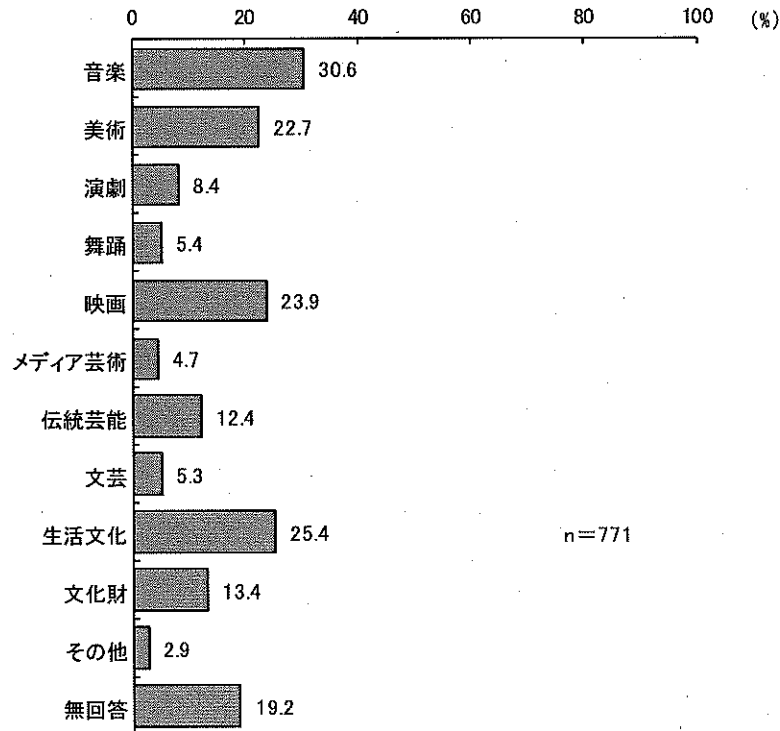
今後、活動したい内容（活動意向）の種目の第1位は「生活文化」が25.4%で最も高くなっており、次いで「映画」が23.9%、「ポピュラー音楽」が23.0%の順となっている。

過去の調査と比較すると、平成30年度調査で第2位となった「映画」は平成26年度調査から増加傾向にある。

<ジャンル別>

ジャンル別でみると、第1位が「音楽」で30.6%、次いで「生活文化」が25.4%、「映画」が23.9%の順となっている。

【図2-6-ii ジャンル別 今後したい文化・芸術活動】



<性・年代別 活動したい内容の上位種目>

今後、活動したい種目を性・年代別でみると、男性では40～49歳から60～69歳までは「映画」が第1位に挙げられており、その他の年代は18～29歳が「生活文化」、30～39歳が「ポピュラー音楽」と「映画」、70歳以上が「美術」を第1位に挙げている。女性では30～39歳、40～49歳、60～69歳、70歳以上で「生活文化」が第1位に挙げられており、その他の年代は18～29歳が「美術」、50～59歳が「映画」を第1位に挙げている。

【図2-6-iii 性・年代別 今後したい文化・芸術活動の上位種目】 (%)

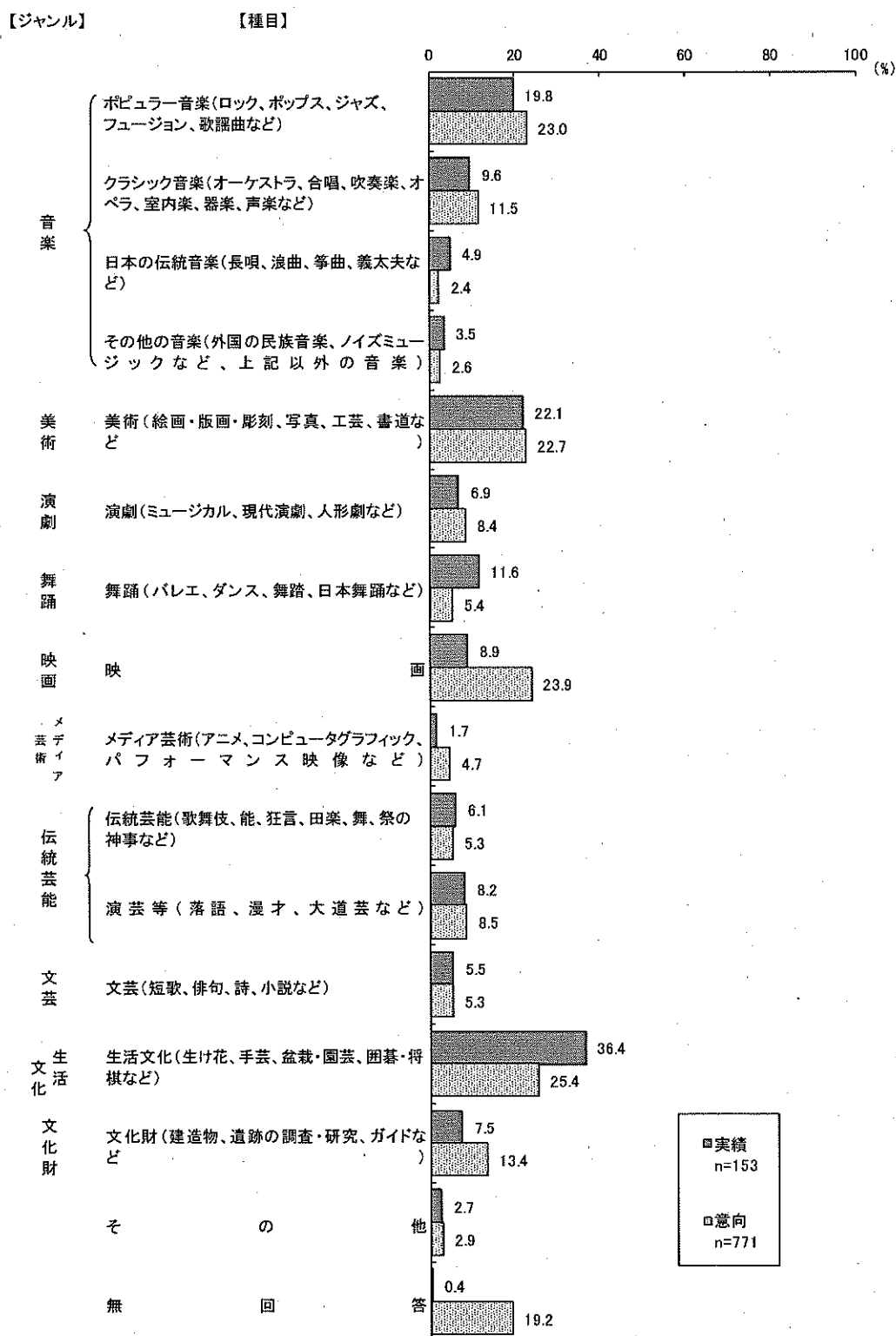
性	年代	件数	1位	2位	3位	4位	5位
男性	18～29歳	41	生活文化 18.8	ポピュラー音楽/映画/メディア芸術/文化財			12.5
	30～39歳	53	ポピュラー音楽/映画 25.0		クラシック音楽/演芸等 16.7		美術/文化財 13.9
	40～49歳	56	映画 30.5	ポピュラー音楽 25.4	美術 23.7	生活文化 20.3	文化財 16.9
	50～59歳	56	映画 30.5	ポピュラー音楽 29.3	生活文化 20.7	文化財 19.5	美術 15.9
	60～69歳	66	映画 26.7	ポピュラー音楽 22.9	美術 21.9	文化財 21.0	生活文化 15.2
	70歳以上	105	美術 29.5	生活文化 25.6	文化財 23.1	ポピュラー音楽/映画 21.8	
女性	18～29歳	54	美術 23.8	ポピュラー音楽/映画/生活文化 19.0			クラシック音楽/演劇 14.3
	30～39歳	51	生活文化 42.9	映画 34.3	美術 22.9	ポピュラー音楽 17.1	メディア芸術/演芸等/文化財 8.6
	40～49歳	77	生活文化 34.6	美術 28.4	映画 23.5	ポピュラー音楽 22.2	クラシック音楽 19.8
	50～59歳	58	映画 40.0	ポピュラー音楽 38.8	美術 32.9	生活文化 28.2	クラシック音楽/演劇/文化財 11.8
	60～69歳	68	生活文化 30.6	美術 27.8	映画 23.1	ポピュラー音楽 19.4	演劇 15.7
	70歳以上	87	生活文化 32.3	ポピュラー音楽 21.5	美術 18.5	舞踊 15.4	クラシック音楽/演劇/伝統芸能 12.3

<活動内容との比較>

2-2の「昨年1年間の活動実績」と今後の活動意向とを比較すると、活動意向が10ポイント以上上回っている種目は、「映画」(+15.0ポイント)となっている。

また、実績に比べ、意向が10ポイント以上下回っている種目としては、「生活文化」(-11.0ポイント)となっている。

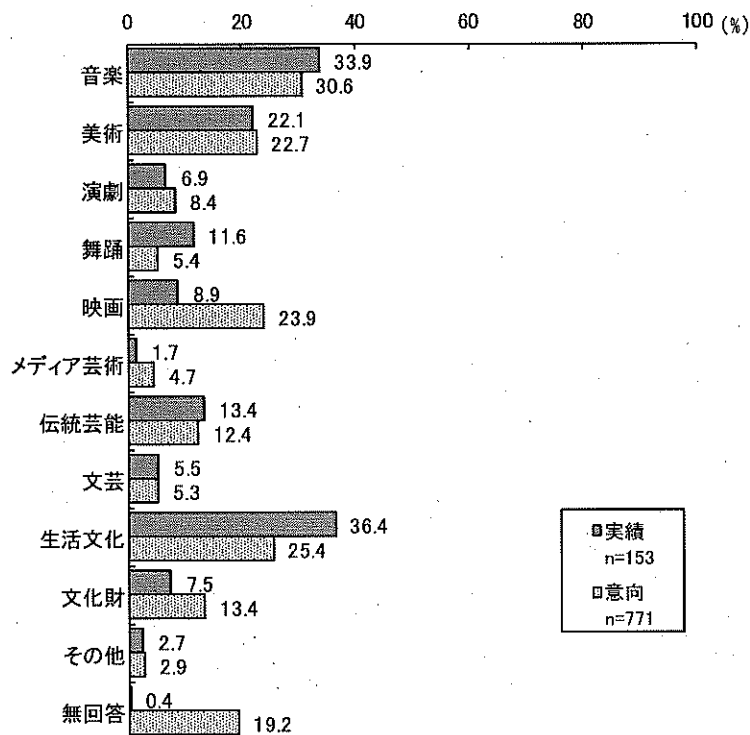
【図2-6-iv 活動実績と活動意向の比較】



<活動したジャンルとの比較>

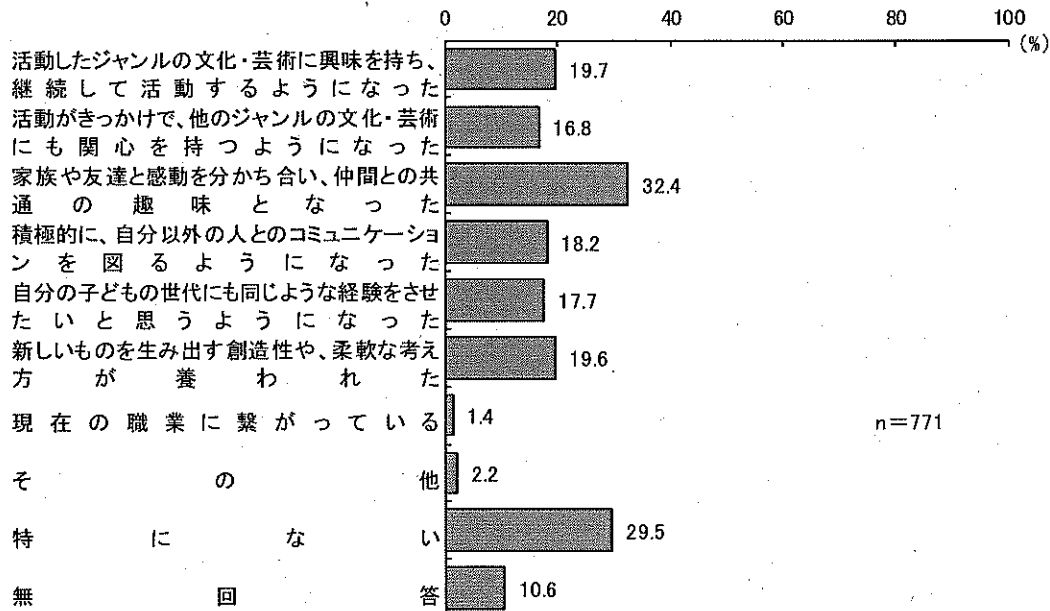
2-2の活動内容と同様に、ジャンルについても昨年1年間に活動したジャンルと今後活動したいジャンルとを比較すると、今後の活動意向が「映画」では15.0ポイント上回っている。一方、「生活文化」では活動した実績が11.0ポイント上回っている。

【図2-6-v ジャンル別 活動実績と活動意向の比較】



2-7 文化・芸術活動による効果・影響

問16 あなたは、これまで文化・芸術に関する活動を行ったことで、自身にどのような効果・影響がありましたか。
次の中から当てはまるものすべてに○をつけてください。



<全体>

活動による効果・影響については、「家族や友達と感動を分かち合い、仲間との共通の趣味となった」が32.4%で最も高く、次いで「活動したジャンルの文化・芸術に興味を持ち、継続して活動するようになった」が19.7%、「新しいものを生み出す創造性や、柔軟な考え方が養われた」が19.6%となった。なお「特にない」は29.5%であった。

また、「現在の職業に繋がっている」で挙げられた具体的職業は、次の通りである。

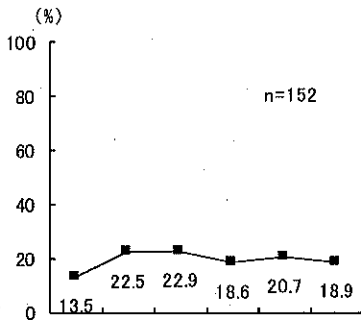
- ・介護施設
- ・途上国の開発計画/技術協力の専門家
- ・クラシックギター演奏指導
- ・音楽家

<年代別>

年代別でみると、すべての年代で「家族や友達と感動を分かち合い、仲間との共通の趣味となった」が第1位となっている。また、「自分の子どもの世代にも同じような経験をさせたいと思うようになった」では30～39歳と40～49歳で比較的高い割合となっており、子育て世代における文化・芸術による効果・影響の変化が伺える。

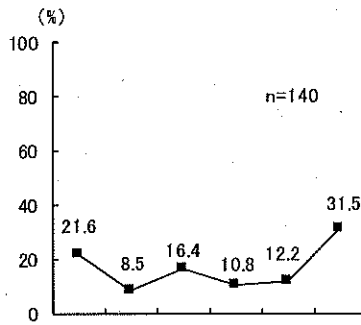
【図2-7-i 年代別 文化・芸術活動による効果・影響】

活動したジャンルの文化・芸術に興味を持ち、
継続して活動するようになった



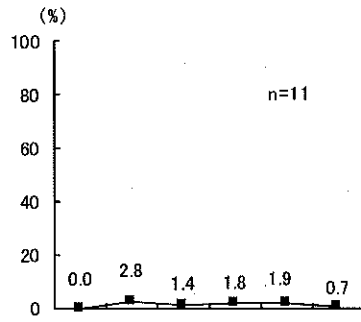
1	3	4	5	6	7
8	0	0	0	0	0
5	5	5	5	5	歳
2	3	4	5	6	以
9	9	9	9	9	上
歳	歳	歳	歳	歳	

積極的に、自分以外の人との
コミュニケーションを図るようになった



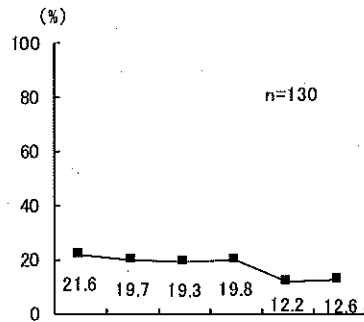
1	3	4	5	6	7
8	0	0	0	0	0
5	5	5	5	5	歳
2	3	4	5	6	以
9	9	9	9	9	上
歳	歳	歳	歳	歳	

現在の職業に繋がっている



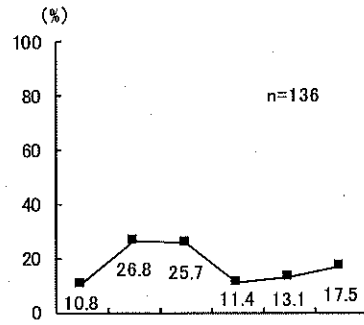
1	3	4	5	6	7
8	0	0	0	0	0
5	5	5	5	5	歳
2	3	4	5	6	以
9	9	9	9	9	上
歳	歳	歳	歳	歳	

活動がきっかけで、他のジャンルの
文化・芸術にも関心を持つようになった



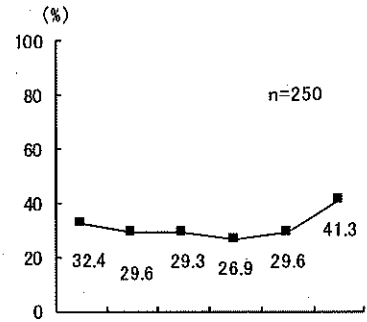
1	3	4	5	6	7
8	0	0	0	0	0
5	5	5	5	5	歳
2	3	4	5	6	以
9	9	9	9	9	上
歳	歳	歳	歳	歳	

自分の子どもの世代にも同じような
経験をさせたいと思うようになった



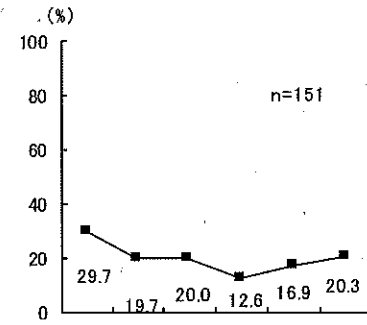
1	3	4	5	6	7
8	0	0	0	0	0
5	5	5	5	5	歳
2	3	4	5	6	以
9	9	9	9	9	上
歳	歳	歳	歳	歳	

家族や友達と感動を分かち合い、
仲間との共通の趣味となった



1	3	4	5	6	7
8	0	0	0	0	0
5	5	5	5	5	歳
2	3	4	5	6	以
9	9	9	9	9	上
歳	歳	歳	歳	歳	

新しいものを生み出す創造性や、
柔軟な考え方が養われた



1	3	4	5	6	7
8	0	0	0	0	0
5	5	5	5	5	歳
2	3	4	5	6	以
9	9	9	9	9	上
歳	歳	歳	歳	歳	

<地区別>

地区別でみると、中部地区と西部地区では「家族や友達と感動を分かち合い、仲間との共通の趣味となった」が第1位となっている。一方、東部地区では「特にない」が第1位となっている。

「家族や友達と感動を分かち合い、仲間との共通の趣味となった」では東部地区が3割を下回り、他の2地区に比べて低くなっている。一方、「新しいものを生み出す創造性や、柔軟な考え方が養われた」では、東部地区は他の2地区に比べて高い値となっている。

【図2-7-ii 地区別 文化・芸術活動による効果・影響】

